岡山学院大学

学校教育法施行規則第 172 条 2 に基づき、次に掲げる教育研究活動等の状況についての情報を公表します。

一 大学の教育研究上の目的に関すること （1 号関係）

人間生活学部食物栄養学科

本学は、教育基本法、学校教育法および大学設置基準により、高等学校基礎教育の上に一般の学術文化の研究を行なうとともに、我が国の少子高齢化時代に対応する栄養管理の専門教育に重きをおく大学教育を施し、よき社会人として時代の進運に応じ、Society 5.0 で実現する地域社会の指導者たるの人材の育成するをもって目的とする。

教育目標

人間生活学部食物栄養学科では、高度な専門知識や技能を修得し、健康寿命延伸・QOL 向上のための栄養の指導を行う専門家を育成する。

４年間じっくり学ぶことで、栄養士免許を取得するとともに、管理栄養士の国家試験受験資格を得る。管理栄養士とは、「人」の健康の維持増進をはかるための栄養の指導に携わる専門家である。高齢化が進むこれからの社会にあってはチーム医療のスタッフとして大いに期待され、また、食品技術系の企業においても、管理栄養士に人材ニーズが高まっている。食物栄養学科では将来、こうした栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献する管理栄養士を育てるために次の教育目標を掲げている。

① 生活習慣病の予防と改善に貢献する管理栄養士の養成
② 疾病の予防や治療において栄養評価・判定に基づく高度な専門知識・技能による栄養指導及び栄養管理等に携わることのできる管理栄養士の養成
③ 豊かな人間性に富み、カウンセリングや福祉・介護分野の知識を修得した管理栄養士の養成
④ 人材ニーズが高まっている食品技術系の企業で活躍する管理栄養士の育成
⑤ 学校における食に関する指導の目標、食に関する指導の全体計画、各教科等や給食における食に関する指導方法を修得し、管理栄養士として学んだことを学校教育の現場で生かすことができる栄養教諭の育成

※ Society 5.0 とは（内閣府 https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/）

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）である。

狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第５期科学技術基本計画（平成 28～令和 2 年度）において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

Society 5.0 で実現する社会は

IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、

今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服する。
　また、人工知能（AI）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服される。
　社会の変革（イノベーション）を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重しあえる社会、一人一人が快適で活躍できる社会となる。

　Society 5.0 時代に必要な 3 つの力（岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科　基礎教育科目の教育課程編成・実施の方針）

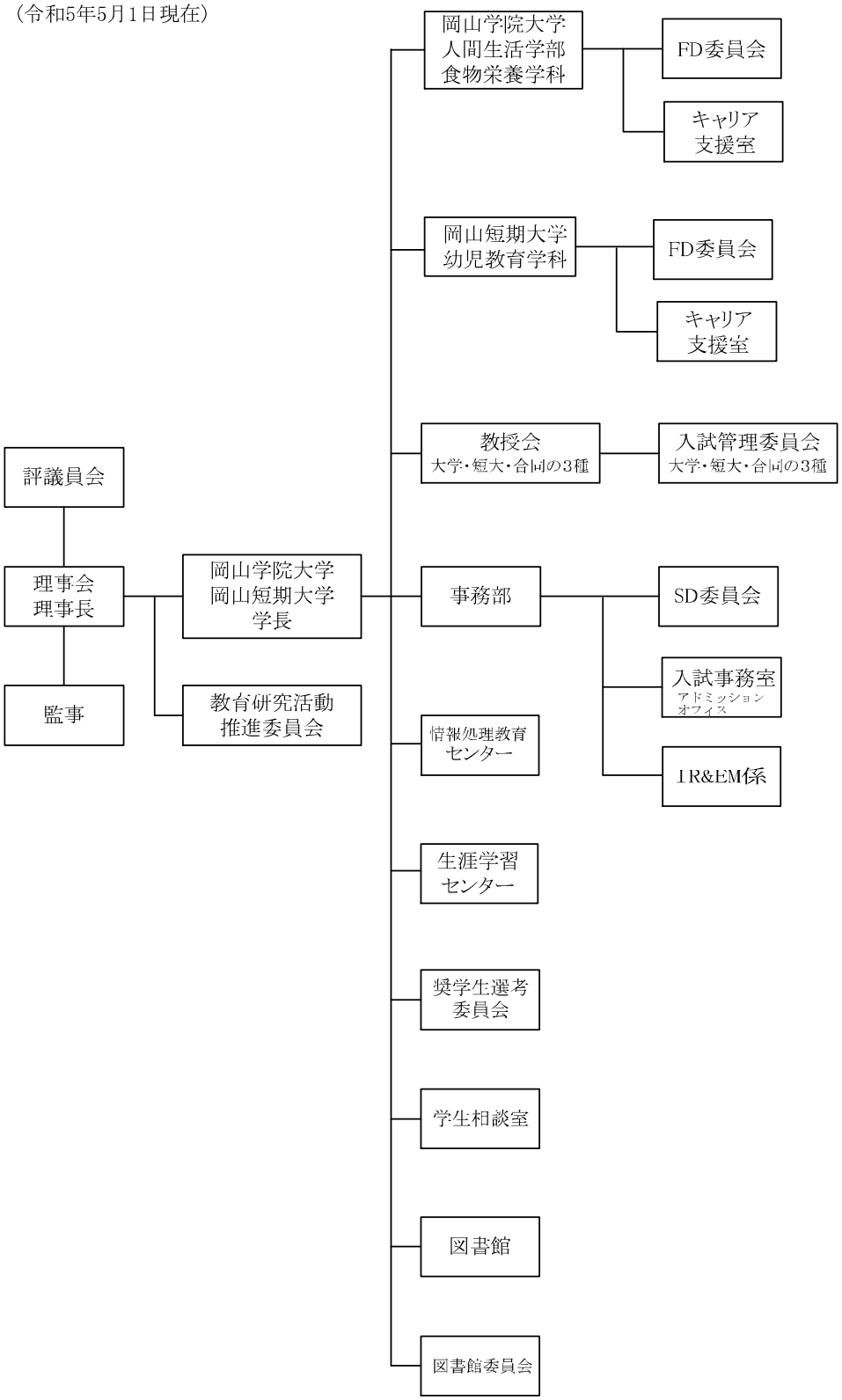
クリエイティブ力
　基礎的な知識から新しい知識・健康関連データを創造する力や新食品開発企画力や研究開発力など栄養学分野の基本的な能力と知識を現代の諸問題と関連づけて展開できる力

マネジメント力
　数量的スキルや ICT リテラシーで Society 5.0 時代のビッグデータを管理・活用し、円滑なチームワーク、リーダーシップ、対人コミュニケーションで、個人のヘルスプランを創案し、健康改善につなげる力

ホスピタリティ力
　心身のサポートや精神的にケアする力、健康づくりをサポートするために信頼される社会人としての態度、信念、意見および責任を果たすために必要な倫理観、自己管理力などの力

二 教育研究上の基本組織に関すること （2 号関係）

教育研究上の組織図
（令和5年5月1日現在）



三 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること （3 号関係）

専任教員数（令和５年５月１日現在）（人）

岡山学院大学

学部	学科	教授	准教授	講師	助教	計
人間生活学部	食物栄養学科	7	3	7	1	18

岡山学院大学　教員が有する学位及び業績など

各教員が有する学位及び業績

教員名	原田博史	学位	工学修士	職名	学長 教授

担当科目	教学マネジメント、グローバル研修、教育の方法及び技術	
専門分野	土木構造物の構造解析、情報処理、米国アクレディテーションシステム	
最終学歴	昭和 52 年 3 月	法政大学大学院工学研究科建設工学専攻修士課程修了
これまでの主な経歴	昭和 52 年 4 月	会社勤務（昭和 59 年 3 月迄）
	昭和 59 年 4 月	学校法人原田学園主事就任（昭和 61 年 3 月末迄）
	昭和 59 年 4 月	岡山女子短期大学講師（昭和 63 年 3 月迄）
	昭和 60 年 8 月	大学設置審議会の教員組織審査（岡山女子短期大学　講師 コンピュータ概論、コンピュータ演習、コンピュータ演習Ⅱ、英文タイプⅡ（ワープロ））
	昭和 61 年 4 月	学校法人原田学園評議員、理事就任（現在に至る）
	昭和 61 年 4 月	学校法人原田学園副理事長就任（平成 14 年 4 月 1 日迄）
	昭和 62 年 4 月	学校法人原田学園法人本部長（平成 2 年 3 月 31 日迄）
	昭和 63 年 4 月	岡山女子短期大学助教授（平成元年 3 月 31 日迄）
	平成元年 4 月	岡山女子短期大学（平成 12 年 4 月岡山短期大学に名称変更） 教授（現在に至る）
	平成 2 年 4 月	岡山女子短期大学副学長（平成 10 年 3 月 31 日迄）
	平成 10 年 4 月	岡山女子短期大学（平成 12 年 4 月岡山短期大学に名称変更） 学長（現在に至る）
	平成 14 年 4 月	岡山学院大学学長、人間生活学部学部長就任（現在に至る）
	平成 14 年 4 月	学校法人原田学園理事長就任（現在に至る）
	令和 2 年 4 月	岡山学院大学教授　（現在に至る）
これまでの主な業績	昭和 59 年 4 月	岡山女子短期大学の全学科（家政学科・食物栄養学科・幼児教育学科）に情報処理教育を導入した。
	昭和 59 年 12 月	岡山女子短期大学の英語科増設に伴ってカナダブリティッシュコロンビア州立マラスピナ・カレッジ（現バンクーバー・アイランド・ユニバーシティ）との姉妹校提携を掌った。
	昭和 61 年 4 月	英語科学生の姉妹校での独自の英語研修を導入した。 会計及び教学関係の殆どの事務処理の機械化を導入した。
	昭和 63 年 9 月	英語科を母体とする専攻科英語秘書専攻を平成元年４月に開設する為、カリキュラムの中に姉妹校との単位互換科目を取り入れ、学生の滞在施設となる本学所有のカナダ研修センター（敷地 892.37 ㎡、延床面積 182.98 ㎡）を姉妹校の所在するカナダＢＣ州ナナイモ市に平成元年７月開設した際、購入から改修まで全て掌った。
	平成 2 年 10 月	教育の場において情報処理技術者の養成が急務となり、情報処理教育センターを新設した際、設計、設備を全て企画した。
	平成 6 年 1 月	岡山女子短期大学開学 40 周年史刊行した際、1 年を掛けて全て編集し刊行した。
	平成 6 年 12 月	体育館を新設した際、設計、設備を全て企画した。
	平成 8 年 3 月	これまでの通年制の科目履修を改め、学習目標をたて易く、単位修得を弾力化するセメスター制を導入した。
	平成 8 年 4 月	全開講授業科目のシラバスの作成を指導し、学生に配付した。 全学をあげて大学改革を推進するため、本学独自の大学改革の標語「ニューカレッジ・フロンティアプラン（新・短期大学・最先端・構想）（ＮＣＦＰ）」を掲げ、教育内容・施設設備・学生生活等あらゆる面からの自己点検・

		評価を開始した。
	平成８年７月	公式ホームページを開設した。
	平成９年４月	平成 9 年後期セメスター開講授業科目のうち専任教員担当授業科目全てに授業アンケートを実施した。
	平成９年９月	校舎内の図書館から図書館を新設した際、設計、設備を全て企画した。
	平成９年 10 月	スター型の学内ＬＡＮ（光ケーブルの基幹１Km 及び支線６Km）を学内全域の敷設を計画し、同時に学術情報センターから JPNIC に接続すると同時に、教員研究室には授業活用の授業計画による採択方式で端末を設置した。また、学生のホームルームの全て、図書館、情報処理教育センター及び就職求人コーナー等にも端末を設置し、インターネットの活用を促進した。
	平成 10 年４月	学内ＬＡＮ「ＯＷＣＮＥＴ」構築により、情報処理教育科目に限らずネットワーク教育を様々な授業科目に取り入れることとした。
	平成 11 年１月	授業を受けやすい環境を整備する目的で、全教室・研究室に冷暖房を整備した。
	平成 12 年４月	専任教員が担当する授業科目の全てに対して、履修学生による学生の授業評価を実施し、平成 12 年度より学内にホームページで公表した。
	平成 12 年５月	岡山女子短期大学の校名を「岡山短期大学」に変更し男女共学とした。
	平成 12 年 12 月	平成 11 年度自己点検・評価報告書に基づく第三者評価（高校教員による本学視察及び意見交換）を実施した。
	平成 13 年４月	教育水準の確保並びに教員の教育意識の向上を図るべく、ＦＤ（ファカルティディベロップメント）に学科毎に１年をかけて取り組み、その内容・成果を全学教育に反映させるため、全学科全専任教員参加のＦＤワークショップを実施した。
	平成 13 年９月	平成 12 年度実施した自己点検・評価報告書に基づく第三者評価（プログラムレビュー）並びに教員によるＦＤワークショップの記録全てを平成 12 年度自己点検・評価報告書に掲載して公表し、さらに本学公式ホームページで平成 12 年度自己点検・評価報告書を学内外に公開した。
	平成 14 年１月	岡山短期大学に図画工作・器楽レッスン棟を新設した。
	平成 14 年４月	岡山学院大学の開学に伴い C 棟を全面改修により栄養学実験実習棟を新設した。 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科及び生活情報コミュニケーション学科を開学させた。
これまでの主な研究業績	（著書） 1. 短期大学における自己点検・評価の有り方に関する調査研究報告書（共著・日本私立短期大学協会短期大学運営問題委員会） 2. 米国２年制高等教育機関の認定過程等について（共著・日本私立短期大学協会） 3. 高等教育機関認定のハンドブックー米国北西地区大学認定協会ー（共著・日本私立短期大学協会） 4. 岡山女子短期大学開学４０周年史(共著・編集・岡山女子短期大学) 5. 私立短期大学の管理運営と活性化（共著・日本私立短期大学協会） （学術論文） 1. 多経間ラーメンの位相差を考慮した振動解析（法政大学大学院工学研究科（修士論文）） 2. 女子短大におけるコンピュータ教育（岡山女子短期大学紀要第９号） 3. 短期大学における情報教育（短期大学教育・日本私立短期大学協会） 4. 短期大学教育の質保証と国際通用性（短期大学教育 73 号・日本私立短期大学協会） 5. 米国の 2 年制カレッジと日本の短期大学（短期大学教育 74 号・日本私立短期大学協会） 6. 短期大学基準協会の認証評価と教学マネジメント（短期大学教育 75 号・日本私立短期大学協会） （その他） 1. 岡山短期大学幼児教育学科 Society 5.0 保育者養成コース開設（共著・岡山学院大学・岡山短期大学紀要第 44 号）	
学会及び社会における活動等	土木学会会員（現在に至る） 高等教育質保証学会会員（現在に至る） 日本私立短期大学協会常任理事（現在に至る） 公益社団法人フードスペシャリスト協会理事（現在に至る） 一般財団法人大学・短期大学基準協会理事長（現在に至る）	

教員名	次田隆志	学位	農学博士	職名	教授

担当科目	食文化論、食品学総論ⅠⅡ、食品学総論実験、食料経済、食文化論、フードコーディネート、食品品質管理論	
専門分野	食品学	
最終学歴	昭和 54 年３月	東京大学大学院農学系研究科農芸化学専門課程博士課程修了
これまでの主な経歴	昭和 54 年４月 昭和 55 年４月 昭和 57 年４月 昭和 58 年４月 昭和 60 年４月 平成２年５月 平成７年７月 平成７年 12 月 平成 10 年４月 平成 14 年４月 平成 16 年４月	湘北短期大学非常勤講師(栄養化学担当)（昭和55年３月まで) 青山学院女子短期大学非常勤講師(栄養学､生活科学実験担当)（昭和58年３月まで) 京浜女子大学非常勤講師(食品化学､食品化学実験担当)（昭和58年３月まで) 東京大学農学部助手(農芸化学実験､農芸化学卒業研究､大学院食品化学特論担当)（昭和60年３月まで) 株式会社加ト吉、バイオサイエンス研究室長（平成７年11月まで) 株式会社加ト吉バイオ、取締役研究開発部長(併任)（平成９年５月まで) 佐賀大学非常勤講師(生物資源利用化学特講担当) 株式会社加ト吉、品質管理室長（平成９年５月まで) 岡山女子短期大学(現岡山短期大学)教授（食品加工学、食品学各論、公衆栄養学担当) 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科教授(食品学各論､食文化論､食品学各論実験Ⅰ・Ⅱ、卒業研究(A),(B)担当）（現在に至る) 香川大学工学部非常勤講師（新技術商業化論担当）（平成 16 年９月まで)
これまでの主な研究業績	（著書) 1. キチン･キトサンの開発と応用 2. 機能性食品の開発展望 3. Advances in Fisheries Technology and Biotechnology for Increased Profitability. 4. 新食品開発用素材便覧 5. キチン、キトサンハンドブック 6. バイオセパレーションプロセス便覧 7. ゴマの機能と科学 （学術論文) 1. Fractionation and Identification of Volatile Acids and Phenols in the Steam Distillate of Rice Bran. 2. Volatile Components in the Steam Distillate of Rice Bran. Identification of Neutral and Basic Compounds. 3. GC and GC-MS Analysis of Headspace Volatiles by Tenax GC Trapping Techniques. 4. Volatile Components after Cooking Rice Milled to Different Degrees. 5. Changes of Headspace Volatile Components of Soybeans during Roasting. 6. Changes of Volatile Flavor Components of Soybeans during Roasting. 7. Cooking Flavor and Texture of Rice Stored under Different Conditions. 8. Effect of Parboiling on Texture and Flavor of Cooked Rice. 9. 米の貯蔵中の変化に及ぼすパーボイル加工の影響 10. キチン・キトサンによる作物の生長促進効果, 第１報 生長促進とその作用性 11. キチン・キトサンによる作物の生長促進効果　第２報 各種作物への栽培適用性 12. 微生物・酵素利用によるキチン・キトサンおよびそのオリゴ糖の生産技術の開発 13. Hypocholesterolemic Effect of Chitosan in Adult Males. 14. Effect of Dietary Chitosan on Faecal Microbiota and Faecal Metabolites of Humans. 15. ゲル化キトサンのコレステロール改善作用 16. キトサン添加即席粥の血中コレステロール改善作用 17. キトサンの過剰摂取における糞便性状への影響ならびにヒトにおける消化吸収性 18. グルコサミンの食品添加における安定性 19. 黒豆煮汁の機能性解析とヒト試験 20. 倉敷市老人クラブ連合会と提携した「有喜・栄養長寿教室」と管理栄養士教育における位置づけ(査読付)	

	21. 倉敷市老人クラブ構成員における健康・栄養調査(査読付) 22. 本学学生およびその家族における，年中行事の認知状況と行事食の認知・経験状況の解析(査読付) 23. 本学学生の家庭における雑煮の実態調査(査読付) 24. 苦味・渋味食品の喫食とＢＭＩとの関係(査読付)
学会及び社会における活動等	日本農芸化学会 日本栄養･食糧学会 日本家政学会 日本調理科学会 一般社団法人おいしさの科学研究所理事（現在に至る）

教員名	清水憲二	学位	理学博士	職名	教授

担当科目	基礎生物学、運動栄養学、解剖生理学Ⅰ、運動生理学、解剖生理学実験Ⅰ・Ⅱ、卒業研究Ⅰ	
専門分野	生化学、分子遺伝学、分子腫瘍学　癌の遺伝子科学、癌遺伝子、癌抑制遺伝子、癌分子疫学	
最終学歴	昭和 47 年 12 月 昭和 51 年 10 月	九州大学大学院理学研究科博士課程中途退学 理学博士（九州大学）
これまでの主な経歴	昭和 48 年 1 月 昭和 55 年 8 月 ～昭和 58 年 3 月 昭和 58 年 4 月 昭和 63 年 2 月 昭和 63 年 8 月 平成 6 年 4 月 平成 13 年 4 月 平成 15 年 4 月 平成 24 年 3 月 平成 24 年 4 月	九州大学理学部分子遺伝学講座・助手（分子遺伝学） 米国 NY 州 Cold Spring Harbor （コールドスプリングハーバー）研究所・客員研究員（研究所長：J.D. Watson 博士、主任：M. H. Wigler 博士） 九州大学理学部分子遺伝学講座・助手　（復職） 九州大学理学部分子遺伝学講座・助教授（分子遺伝学） 九州大学医学部第一生化学教室・助教授（生化学） 岡山大学医学部分子細胞医学研究施設、病態遺伝子解析部門・教授（医学生物学、分子遺伝学、生化学） 岡山大学大学院医歯（薬）学総合研究科、腫瘍制御学講座・教授（大学設置審議会の審査結果：大学院教授として○合。） 岡山大学自然生命科学研究支援センター・(副）センター長（併任） 岡山大学教授を定年退職（名誉教授：引き続き、特命教授を兼任） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科特別専任教授（現在に至る）
これまでの主な研究業績	(著書) (15 件から抜粋) 1 医学研究における組換え DNA 実験 III 2Oncogenes and Cancer 3GTP 結合蛋白質 4 標準分子医化学 5 癌化のﾒｶﾆｽﾞﾑを解く (学術論文) (2000 年以前: 52 件から抜粋) 1 5'-3' Exonucleases of bacteriophage T4. (査読付) 2 Introduction of an active enzyme into permeable cells of Escherichia coli : Acquisition of ultraviolet light resistance by uvr mutants on introduction of T4 endonuclease V.(査読付) 3 Human tumor -derived cell lines contain common and different transforming genes. (査読付) 4 Isolation and preliminary characterization of a human transforming gene from T24 bladder carcinoma cells.(査読付) 5 Activation of the T24 bladder carcinoma transforming gene is linked to a single aminoacid change.(査読付) 6 Isolation and preliminary characterization of the transforming gene of a human neuroblastoma cell line. (査読付) 7 Three human transforming genes are related to the viral *ras* oncogenes.(査読付) 8 Structure of the K-*ras* gene of the human lung carcinoma cell line Calu-1. (査読付) 9 Structure and activation of the N-*ras* gene. (査読付) 10 Molecular cloning of an activated human oncogene, homologous to v-*raf*, from primary stomach cancer. (査読付) 11 Mutations of E2F-4 trinucleotide repeats in colorectal cancer with microsatellite instability. (査読付) 12 Close correlation between mutations of E2F4 and hMSH3 genes in colorectal cancers with microsatellite instability.(査読付) 13 Genomic Structure of the Human ING1 Gene and Tumor- specific Mutations Detected in Head and Neck Squamous Cell Carcinomas.(査読付) 2001 年以後 14 A Novel WD40 Repeat Protein, WDC146, Highly Expressed during Spermatogenesis in	

	a Stage-specific Manner. (査読付) 15 Effect of naturally occurring E2F-4 alterations on transcriptional activation and proliferation in transfected cells.(査読付) 16 High frequency of low-level microsatellite instability in early colorectal cancer.(査読付) 17 Reduced expression of the REIC/Dkk-3 gene by promoter -hypermethylation in human tumor cells.(査読付) 18 Prognostic value of loss of heterozygosity around three candidate tumor suppressor genes on chromosome 10q in astrocytomas.(査読付) 19 Allelic loss and reduced expression of the ING3, a candidate tumor suppressor gene at 7q31, in human head and neck cancers. (査読付) 20 Significant correlation of the SCN1A mutations and severe myoclonic epilepsy in infancy. (査読付) 21 Genetic alterations of the ornithine decarboxylase gene in human colorectal cancers.(査読付) 22 Allelic imbalance and microsatellite instability in plasma DNA released from polyclonal pancreatic adenocarcinoma.(査読付) 23 E2F-4 mutation in hereditary non-polyposis colorectal cancer.(査読付) 24 A Case of Pancreatic Adenocarcinoma with Novel K-ras Mutation and Long Term survival.(査読付) 25 Gene silencing of the tyrosine phosphatase SHP1 gene by aberrant methylation in leukemias/lymphomas.(査読付) 26 Smoke exposure, histologic type and geography-related differences in the methylation profiles of non-small cell lung cancer.(査読付) 27 Genome-wide analyses on loss of heterozygosity in head and neck squamous cell carcinomas.(査読付) 28 Cryptic CTL epitope on a murine sarcoma Meth A generated by exon extension as a novel mechanism.(査読付) 29 Detection of codon 61 point mutations of the K-ras gene in lung and colorectal cancers by enriched PCR.(査読付) 30 Splicing isoform of SYT-SSX fusion protein accelerates transcriptional activity and cell proliferation.(査読付) 31 Paroxysmal movement disorders in severe myoclonic epilepsy in infancy.(査読付) 32 Single nucleotide polymorphism in fibroblast growth factor 4 at codon 388 is associated with prognosis in high-grade soft tissue sarcoma.(査読付) 33 Is phenotype difference in severe myoclonic epilepsy in infancy related to SCN1A mutants?(査読付) 34 Establishment and characterization of a biphasic synovial sarcoma cell line, SYO-1. (査読付) 35 Positive correlation between allelic loss at chromosome 14q24-31 and poor prognosis of patients with renal cell carcinoma.(査読付) 36 Tumor-specific exon creation of the HELLS /SMARCA6 gene in non-small cell lung cancer.(査読付) 37 CYP2C polymorphisms, phenytoin metabolism and gingival overgrowth in epileptic subjects.(査読付) 38 Prevalent hyper-methylation of the CDH13 gene promoter in malignant B cell lymphomas.(査読付) 39 Loss of heterozygosity on chromosome 10q associated with malignancy and prognosis in astrocytic tumors, and discovery of novel loss regions.(査読付) 40 SYT, a partner of SYT-SSX oncoprotein in synovial sarcomas, interacts with mSin3A, a component of histone deacetylase complex.(査読付) 41 Significant growth suppression of synovial sarcomas by the histone deacetylase inhibitor FK228 in vitro and in vivo.(査読付) 42 Genetic and epigenetic alterations of BRG1 promotes oral cancer development.(査読付) 43 Fine deletional mapping of chromosome 4q22-35 region in oral cancer.(査読付) 44 Single nucleotide polymorphisms in the EXO1 gene and risk of colorectal cancer

	in a Japanese population.(査読付) 45 Frequent deletion and down-regulation of ING4, a candidate tumor suppressor gene at 12p13, in head and neck squamous cell carcinomas.(査読付) 46 Single nucleotide polymorphism at codon 133 of the RASSF1 gene is preferentially associated with human lung adenocarcinoma risk. (査読付) 47 Identification of a candidate tumor suppressor gene RHOBTB1 located at a novel allelic loss region 10q21 in head and neck cancer. (査読付) 48 EP2/EP4-mediated suppression of antigen-specific human T cell responses by prostaglandin E2.(査読付) 49 Single nucleotide polymorphism of the AXIN2 gene is preferentially associated with human lung cancer risk in a Japanese population.(査読付) 50 Multiple splicing variants of Naf1/ABIN-1 transcripts and their alterations in hematopoietic tumors. (査読付) 51 Role of prostaglandin D2 and E2 terminal synthases in chronic rhinosinusitis.(査読付) 52 High frequent allelic loss of chromosome 6q16-23 in osteosarcoma: Involvement of cyclin C in osteosarcoma.(査読付) 53 Fine deletion mapping of chromosome 2q21-37 shows three preferentially deleted regions in oral cancer.(査読付) 54 Oesophageal squamous cell cancer may develop within a background of accumulating DNA methylation in normal and dysplastic mucosa. (査読付) 55 Single nucleotide polymorphism in the RAD18 gene and risk of colorectal cancer in Japanese population.(査読付) 56 Loss or down -regulation of HLA class I expression at the allelic level in freshly isolated leukemic blasts.(査読付) 57 Comprehensive loss of heterozygosity analysis and identification of a novel hotspot at 3p21 in salivary gland neoplasms.(査読付) 58 The impact of epidermal growth factor receptor gene status on gefitinib-treated Japanese patients with non-small-cell lung cancer.(査読付) 59 T75M-KCNJ2 mutation causing Andersen-Tawil syndrome enhances inward rectification by changing Mg2+ sensitivity. (査読付) 60 The association between RAD18 Arg302Gln polymorphism and the risk of human non-small-cell lung cancer. (査読付) 61 Down-regulation of ING3 mRNA Expression predicts poor prognosis in head and neck cancer.(査読付) 62 Decreased expression of the SIN3A gene, a candidate tumor suppressor, located at the prevalent allelic loss region 15q23 in non-small cell lung cancer.(査読付) 63 Involvement of EphA2 in head and neck squamous cell carcinoma: mRNA expression, loss of heterozygosity and immuno-histochemical studies.(査読付) 64 Expression and mutation analysis of epidermal growth factor receptor (EGFR) in head and neck squamous cell carcinoma.(査読付) 65 Deletion mapping of chromosome 4q22-35 and identification of four frequently deleted regions in head and neck cancers. (査読付) 66 Deletion at Dickkopf (dkk)-3 locus (11p15.2) is related with lower lymph node metastasis and better prognosis in head and neck squamous cell carcinomas.(査読付) 67 Lack of B-RAF mutations in head and neck squamous cell carcinoma.(査読付) 68 Rasmussen encephalitis associated with SCN1A mutation.(査読付) 69 Loss of heterozygosity at chromosome 14q is associated with poor prognosis in head and neck squamous cell carcinomas.(査読付) 70 The allelic distribution of a single nucleotide polymorphism in the PDCD5 gene locus of Japanese non-small cell lung cancer patients.(査読付) 71 Fine deletion analysis of 1p36 chromosomal region in oral squamous cell carcinomas.(査読付) 72 Down-regulation of TESTIN and its association with previous cancer history and

	poor survival in head and neck squamous cell carcinomas.(査読付) 73 Frequent deletion of ING2 locus at 4q35.1 associates with advanced tumor stage in head and neck squamous cell carcinoma.(査読付) 74 T-lymphocyte maturation-associa-ted protein gene as a candidate metastasis suppressor for head and neck squamous cell carcinomas.(査読付) 75 Increased mRNA expression of ADAMTS metalloproteinases in metastatic foci of head and neck cancer. (査読付) 76 Frequent Allelic Loss of Dkk-1 Locus (10q11.2) is Related with Low Distant Metastasis and Better Prognosis in Head and Neck Squamous Cell Carcinomas.(査読付) 77 MET gene amplification or EGFR mutation activate MET in lung cancers untreated with EGFR tyrosine kinase inhibitors.(査読付) 78 REIC/Dkk-3 stable transfection reduces the malignant phenotype of mouse prostate cancer RM9 cells.(査読付) 79 Accumulation of aberrant CpG hypermethylation by Helicobacter pylori infection promotes development and progression of gastric MALT lymphoma.(査読付) 80 Loss of heterozygosity at the 9p21-24 region and identification of BRM as a candidate tumor suppressor gene in head and neck squamous cell carcinoma.(査読付) 81 Expression and Mutation Analysis of Her2 in Head and Neck Squamous Cell Carcinoma.(査読付) 82 Missense polymorphisms of PTPRJ and PTPN13 genes affect susceptibility to a variety of human cancers.(査読付) 83 Multi-step aberrant CpG island hyper-methylation is associated with the progression of adult T-cell leukemia/lymphoma.(査読付) 84 Tumor-specific mutation and downregulation of ING5 detected in oral squamous cell carcinoma.(査読付) 85 Identification of direct targets for the miR-17-92 cluster by proteomic analysis.(査読付) 86 Liposomal Delivery of MicroRNA-7-Expressing Plasmid Overcomes Epidermal Growth Factor Receptor -Tyrosine Kinase Inhibitor-Resistanc-e in Lung Cancer Cells. (査読付)
学会及び社会における活動等	Robertson Research Fund Award　ロバートソン研究財団奨励賞 (NY州, アメリカ合衆国) 日本分子生物学会　庶務幹事 日本癌学会　評議員、編集委員 日本がん分子疫学研究会　常任幹事

教員名	狩山玲子	学位等	医学博士・薬剤師	職名	教授

担当科目	微生物学、食品品質管理論、 食品衛生学Ⅰ・Ⅱ、食品衛生学実験	
専門分野	微生物学	
最終学歴	昭和 50 年 3 月	岡山大学医学部薬学科卒業
これまでの主な経歴	昭和 50 年 4 月 昭和 52 年 4 月 昭和 58 年 10 月 昭和 61 年 5 月 昭和 61 年 10 月 平成 7 年 8 月 平成 11 年 4 月 平成 11 年 6 月 平成 13 年 1 月 平成 15 年 10 月 平成 16 年 4 月 平成 18 年 6 月 平成 19 年 4 月 平成 27 年 4 月 平成 29 年 4 月 平成 29 年 10 月 平成 30 年 4 月	岡山大学医学部細菌学教室 研究生（昭和 52 年 3 月まで） 岡山大学医学部細菌学教室文部教官 助手（昭和 61 年 4 月まで） 米国テンプル大学医学部（Temple University School of Medicine）にポスドク（Postdoctoral Research Associate）として留学 「腸球菌の溶菌に関する生化学的・免疫学的研究」（昭和 61 年 4 月まで） 米国テンプル大学医学部 Postdoctoral Research Associate（昭和 61 年 9 月まで） 米国テンプル大学医学部 Research Assistant Professor（平成 7 年 7 月まで） 岡山大学医学部泌尿器科 研究員（平成 11 年 3 月まで） 米国ミシガン大学歯学部に客員研究員として出張（平成 11 年 5 月まで） 岡山大学医学部附属病院泌尿器科文部教官 助手（平成 12 年 12 月まで） 岡山大学医学部附属病院泌尿器科文部科学教官 助手（平成 15 年 9 月まで） 岡山大学医学部・歯学部附属病院泌尿器科文部科学教官 助手（平成 16 年 3 月まで） 岡山大学医学部・歯学部附属病院泌尿器科 助手（平成 18 年 5 月まで） 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科泌尿器病態学 助手（平成 19 年 3 月まで） 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科泌尿器病態学 助教（平成 27 年 3 月まで）担当授業科目：大学院研究方法論基礎（臨床細菌学） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科　准教授 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科　教授（現在に至る） 岡山大学医学部 非常勤講師（細菌学）（現在に至る） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 特別専任教授　（現在に至る） （担当科目：微生物学、食品衛生学Ⅰ、食品衛生学Ⅱ、食品品質管理論（オムニバス）、食品衛生学実験、卒業研究Ⅰ）
これまでの主な研究業績	（著書） 1. Bacterial Growth and Lysis: Metabolism and Structure of the Bacterial Sacculus 2.バンコマイシン耐性菌戦略　Q&A. 3.ミュータンスレンサ球菌の臨床生物学 4.全面改訂　バンコマイシン耐性菌戦略　Q&A 5.バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)感染症ハンドブック 6. Q&A で読む細菌感染症の臨床と検査 7. 図説　臨床看護医学 8.患者が求める「医療安全」「院内感染」対策 （学術論文） 1. ブドウ球菌脂質による Liposome の透過に対する Carotenoid の影響 2. Flagellar antigens of various species of the genus Vibrio and related genera. 3. ブドウ球菌 L-form 菌体の膜系脂質について 4. Colloid titration of heparin using Cat-Floc (polydiallyldimethyl ammonium chloride) as standard polycation. 5. 黄色ブドウ球菌の細胞壁脱落及び合成阻害に伴う脂質変化 6. Effect of glucose and oxygen on the structure of the plasma membrane of Staphylococcus aureus. 7. Lipid composition of Staphylococcus aureus and its derived L-forms. 8. ブドウ球菌膜脂質の環境変化及び壁欠落に伴う変動について 9. リン脂質ミセル構造の電子顕微鏡的観察 10. 壁欠落にともなう細胞膜リン脂質変動の物性論的検討 11. Increase of cardiolipin content in Staphylococcus aureus by the use of antibiotics	

	affecting the cell wall. 12. Streptococcus pyogenes 124 株の L 型菌のリン脂質について 13. 黄色ブドウ球菌の壁欠落にともなう膜リン脂質組成変動のモデル解析 14. ファブリー病を疑われる一症例の生化学的同定について 15. Characterization of a glycophospholipid of Streptococcus pyogenes-derived L-form. 16. The effect of head group structure on phase transition of phospholipid membranes as determined by differential scanning calorimetry. 17. Properties of cell wall-associated DD-carboxypeptidase of Enterococcus hirae (Streptococcus faecium) ATCC 9790 extracted with alkali. 18. Extracellular and cellular distribution of muramidase-2 and muramidase-1 of Enterococcus hirae ATCC 9790. 19. Cloning and sequence analysis of the muramidase-2 gene from Enterococcus hirae. 20. Modular design of the Enterococcus hirae muramidase-2 and Streptococcus faecalis autolysin. 21. Evidence that the PBP5 synthesis repressor (psr) of Enterococcus hirae is also involved in the regulation of cell wall composition and other cell wall-related properties. 22. Bacterial walls, peptidoglycan hydrolases, autolysins and autolysis. 23. Penicillin resistance and autolysis in enterococci. 24. In-vitro activity of the combination of ampicillin and arbekacin against high-level gentamicin-resistant enterococci. 25. バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）の院内感染制御体制に関する報告－VRE 保菌患者の入院を経験して 26. バンコマイシン耐性腸球菌検出法の検討　－同一病棟患者のサーベイランス－ 27. 尿路感染症由来 Enterococcus faecalis の分子疫学的検討 28. VRE 定着患者を経験して 29. In-vitro activity of arbekacin alone and in combination with vancomycin against gentamicin- and methicillin-resistant Staphylococcus aureus. 30. Simple and reliable multiplex PCR assay for surveillance isolates of vancomycin-resistant enterococci. 31. Efficacy of ampicillin plus arbekacin in experimental rabbit endocarditis caused by an Enterococcus faecalis strain with high-level gentamicin resistance. 32. In-vitro synergistic activity of the combination of ampicillin and arbekacin against vancomycin- and high-level gentamicin-resistant Enterococcus faecium with the aph(2”)-Id gene. 33. 尿路感染症由来 Staphylococcus aureus の毒素産生遺伝子の保有状況とその病原性について 34. Identification of a Tn1546-like (type 2) element in vancomycin-resistant Enterococcus faecium isolated from hospitalized patients in Japan. 35. Improved primer design for multiplex PCR analysis of vancomycin-resistant Enterococcus spp. 36. MRSA 尿路感染症と Urosepsis　－有熱化因子の基礎的・臨床的解析－ 37. 尿路感染症由来 Enterococcus faecalis の病原性因子に関する分子疫学的検討 －aggregation substance の病原的意義－ 38. VRE 感染症に対する併用療法の検討 39. Description of a 23.9-kilobase chromosomal deletion containing a region encoding fsr genes, which mainly determines the gelatinase-negative phenotype of clinical isolates of Enterococcus faecalis in urine. 40. Molecular epidemiological studies of Staphylococcus aureus in urinary tract infection. 41. Evaluation of 15 motility media and a direct microscopic method for detection of motility in enterococci. 42. 尿路感染症：新しいアプローチとその展開　乳酸菌膣坐剤の臨床的意義 43. 岡山大学泌尿器科における MRSA 尿路感染症の臨床的背景と付着因子に関する検討 44. バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）サーベイランスに有用な multiplex-PCR 法 45. 尿路における Enterococcus faecalis の付着・定着・病原性に関する検討 46. 尿路感染症由来緑膿菌のバイオフィルムに対するフルオロキノロン系薬とホスホマイシ

	ンの併用効果 47. 感染症における特殊な病態と対応－バイオフィルム感染症 48. Decreased expression of REIC/Dkk-3 in human renal clear cell carcinoma. 49. Biofilm formation among methicillin-resistant Staphylococcus aureus isolates from patients with urinary tract infection. 50. 尿路感染症由来緑膿菌のバイオフィルム形成能と臨床的因子および薬剤感受性に関する検討 51. ラット緑膿菌尿路感染症バイオフィルムに対する prulifloxacin と fosfomycin の併用効果 52. Clinical implications of biofilm formation by Enterococcus faecalis in the urinary tract. 53. Synergistic effect of fosfomycin and fluoroquinolones against Pseudomonas aeruginosa growing in a biofilm. 54. 腎機能障害患者における doripenem の体内動態 55. 緑膿菌バイオフィルムに対するフルオロキノロン系薬とホスホマイシンの併用効果 56. 腸球菌性尿路バイオフィルム形成に関する検討 57. Post-operative infection by pathogenic micro-organisms in the oral cavity of patients with prostatic carcinoma. 58. Synergistic effect of [10]-gingerol and aminoglycosides against vancomycin-resistant enterococci (VRE). 59. A pilot study evaluating the safety and effectiveness of Lactobacillus vaginal suppositories in patients with recurrent urinary tract infection. 60. Urinary excretion of anthocyanins in humans after cranberry juice ingestion. 61. Revised model for Enterococcus faecalis fsr quorum-sensing system: small open reading frame, fsrD, encodes GBAP propeptide corresponding to staphylococcal AgrD. 62. 人工呼吸回路による在宅呼吸管理を必要とする患者の感染管理の実態と気管内吸引関連物品の細菌汚染に関する検討 63. 気管内吸引カテーテルに付着した一般細菌の生菌数測定方法に関する検討 64. 再使用した気管内吸引カテーテルの走査型電子顕微鏡による観察 65. キャピラリーフローセルシステムにおける緑膿菌性バイオフィルムに対する抗菌薬の有効性評価 66. 主として院内感染で問題となる耐性菌－腸球菌（臨床編） 67. 大腸菌性バイオフィルム形成抑制活性を有するクランベリー尿中代謝物の探索 68. Siamycin attenuates fsr quorum sensing mediated by a gelatinase biosynthesis-activating pheromone in Enterococcus faecalis. 69. Treatment of Pseudomonas aeruginosa biofilms with a combination of fluoroquinolones and fosfomycin in a rat urinary tract infection model. 70. 緑膿菌性尿路感染症対策としての抗バイオフィルム剤探索とその基盤技術の開発 71. 尿路感染症由来緑膿菌のバイオフィルム形成能と臨床的因子および薬剤感受性との関連性に関する検討 72. VIM-2 型メタロ□ラクタマーゼ産生 Pseudomonas aeruginosa の分離状況と薬剤感受性 73. バンコマイシン耐性腸球菌（VanA 型 Enterococcus faecalis）のバイオフィルム形成能に関連する基礎的検討 74. 再使用した気管内吸引カテーテルの走査型電子顕微鏡による汚染状況の比較検討 75. バイオフィルム形成と尿路感染症の慢性化 76. Opr86 is essential for viability and is a potential candidate for a protective antigen against biofilm formation by Pseudomonas aeruginosa. 77. 誤嚥性肺炎患者の口腔内の状態と口腔ケアおよび口腔と吸引痰からの検出菌に関する実態調査 78. 緑膿菌性尿路感染症：どう対峙するか 79. メタロー□ーラクタマーゼ産生緑膿菌のバイオフィルム形成能と耐性遺伝子伝達性の検討 80. 尿路由来メタロー□ーラクタマーゼ産生緑膿菌のバイオフィルム形成能および分子疫学的検討 81. MDRP とバイオフィルム

	82. Experimental and clinical studies on fluoroquinolone-insusceptible Escherichia coli isolated from patients with urinary tract infections from 1994 to 2007. 83. 気管内吸引を必要とする長期在宅療養患者に対する感染管理と口腔ケアの実態調査 84. メタロ－□－ラクタマーゼ産生緑膿菌のバイオフィルム形成能および分子疫学的解析 85. リアルタイム in vivo イメージングシステムでの緑膿菌マウス大腿部感染モデルに対するビアペネムの有効性評価 86. メタロ－□－ラクタマーゼ産生緑膿菌のバイオフィルム形成能および blaIMP-1 遺伝子の伝達性に関する検討 87. 気管内吸引カテーテル再使用時の洗浄および保管方法に関する検討 88. 泌尿器感染症とバイオフィルム 89. 重症心身障害者（児）の歯垢内日和見病原菌の検出状況を指標とした口腔ケアの評価 90. Epidemiology of Chlamydophila caviae-like Chlamydia isolated from urethra and uterine cervix. 91. 在宅ケアにおける気管内吸引カテーテル管理方法に関する長期介入 92. 緑膿菌性尿路バイオフィルム in vivo 感染症モデルへのリアルタイムイメージング装置の応用性に関する検討 93. 新規マイクロデバイスに形成された緑膿菌性バイオフィルムの共焦点レーザー走査型顕微鏡観察 94. バイオフィルム形成とクオラムセンシング 95. 淋菌性尿道炎患者での咽頭における淋菌の分離状況に関する検討 96. 緑膿菌性バイオフィルム形成阻害剤のスクリーニングにおける新規マイクロデバイスの有用性について 97. 緑膿菌性尿路バイオフィルム in vitro 実験モデル系におけるコリスチンの有効性評価 98. Development of novel methods for the search of antibiofilm agents. 99. Prevalence of pharyngeal Chlamydia trachomatis and Neisseria gonorrhoeae among heterosexual men in Japan. 100. 泌尿器科領域における緑膿菌感染症の特徴と新規治療法開発に向けた基礎的アプローチ 101. 本邦で分離された多剤耐性アシネトバクター（Acinetobacter baumannii）のバイオフィルム形成能に関する検討 102. バイオフィルム感染症に対する抗菌薬併用療法 103. Assessment of change in biofilm architecture by nutrient concentration using a multichannel microdevice flow system. 104. 緑膿菌ならびにアシネトバクターによるマウス大腿部感染モデルにおけるクオラムセンシング阻害剤と各種抗菌薬の併用効果 105. マウスを用いた緑膿菌性尿路バイオフィルム感染症モデルの作製 106. Molecular epidemiology and clinical implications of metallo-□-lactamase-producing Pseudomonas aeruginosa isolated from urine. 107. 新規マウス薬効評価系の構築に向けた緑膿菌性尿路バイオフィルム感染症モデルの作製 108. 緑膿菌バイオフィルムに対する乳酸菌プロバイオティクスの基礎的検討 109. 新規マウス薬効評価系の構築に向けた緑膿菌性尿路バイオフィルム感染症モデルの作製 110. 緑膿菌バイオフィルムに対する乳酸菌プロバイオティクスの基礎的検討 111. Levofloxacin 500 mg 単回投与における前立腺組織移行性の検討 112. 新規化合物が緑膿菌の抗菌薬抵抗性に及ぼす影響 113. 泌尿器科領域における緑膿菌感染症の治療戦略－基礎的アプローチ 114. バイオフィルム研究の最前線「先進的リアルタイムイメージング法によるクオラムセンシング阻害剤の作用機序の解明に向けて」 115. Clinical analysis of bacterial strain profiles isolated from urinary tract infections: a 30-year study. 116. A Pseudomonas aeruginosa quorum-sensing autoinducer analog enhances the activity of antibiotics against resistant strains. 117. Role of psl Genes in Antibiotic Tolerance of Adherent Pseudomonas aeruginosa. 118. Effects of an autoinducer analogue on antibiotic tolerance in Pseudomonas aeruginosa. 119. Efficacy of Lactobacillus vaginal suppositories for the prevention of recurrent cystitis: A phase II clinical trial. 120. Intraluminal diamond-like carbon coating with anti-adhesion and anti-biofilm effects for uropathogens: A novel technology applicable to urinary catheters.

学会及び社会における活動等	日本化学療法学会　評議員 日本感染症学会　評議員 日本環境感染学会　会員 日本バイオフィルム学会　理事 日本臨床微生物学会　会員 日本性感染症学会　会員 緑膿菌感染症研究会　運営委員 日本食品微生物学会　会員 受賞：Poster Prize at 2nd International ASM-FEMS Conference on Enterococci (Helsingor, Denmark) 受賞：第 1 回日本化学療法学会西日本支部支部長賞－基礎部門― 受賞：第 6 回日本環境感染学会賞 受賞：Poster Prize at XXVth International Conference on Polyphenols (Montpellier, France) 受賞：日本性感染症学会学術奨励賞（2011 年度） 受賞：第 6 回日本化学療法学会西日本支部奨励賞－基礎部門―

教員名	山田治来	学位等	医師･博士(医学)	職名	教授

担当科目	病理学、解剖生理学Ⅱ	
専門分野	内科学・神経内科学　片頭痛の食事療法	
最終学歴	平成 2 年 3 月 平成 16 年 3 月	香川医科大学医学部医学科（現　香川大学医学部医学科）卒業 川崎医科大学大学院医学研究科　修了　博士(医学)学位取得(甲　第 460 号)
これまでの主な経歴	平成 3 年 5 月 平成 5 年 4 月 平成 16 年 4 月 平成 18 年 4 月 平成 22 年 12 月 平成 23 年 4 月 平成 28 年 12 月 平成 31 年 4 月 令和 4 年 4 月	川崎医科大学附属病院　内科　研修医（平成 5 年 3 月まで） 川崎医科大学　内科学（神経）臨床助手（平成 12 年 3 月まで） 川崎医科大学附属病院　内科（神経）シニアレジデント 川崎医科大学附属川崎病院　内科　副医長（平成 18 年 3 月まで） 川崎医科大学附属川崎病院　内科　医長（平成 28 年 3 月まで） 川崎医科大学　総合内科学 1　講師（令和 4 年 3 月まで） 川崎医科大学　総合内科学Ⅰ　講師　臨床実習指導および講義担当（現在に至る） 川崎医療短期大学　看護科　非常勤講師　臨床医学内科Ⅲ（神経）講義担当 川崎医科大学総合医療センター　内科　医長（令和 4 年 3 月まで） 川崎医療福祉大学　保健看護学部　大学院　非常勤講師　兼務（令和 4 年 3 月まで） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科特別専任教授
これまでの主な研究業績	（著書） 1. 脳卒中と生活習慣―脳卒中のリスクファクター―川崎病院発　今日から予防　生活習慣病　～健康長寿の道～（山田剛太郎監修）分担執筆 2. 糖尿病の合併症―神経障害―川崎病院発　今日から予防　生活習慣病　～健康長寿の道～（山田剛太郎監修）分担執筆 （学術論文） 【以下、原著共著　筆頭著者)】 3. Pupil-sparing 型の動眼神経部分麻痺を呈した中脳梗塞の 1 例 4. ベーチェット病の経過中に急速な意識障害を呈し、MRI にて多発性円形病巣を認めた結核症の 1 剖検例 5. Wilson 病の頭部 MRI 6. 著しい精神症状で発症し急激に意識障害に陥るもほぼ完全に回復した原因不明の脳炎症例 7. 重症筋無力症における舌溝 8. 非定型的な trigeminal neuralgia を呈し、MRI で病巣を確認し得た多発性硬化症と考えられる 1 例 9. Notch3 遺伝子に新たなミスセンス変異をみとめた CADASIL(Cerebral autosomal dominant arteriopathy with subcortical infarcts and leukoencephalopathy)の 1 例―禿頭と椎間板ヘルニアの合併について― 10. トリカブト中毒の 1 例 11. 眼球運動障害のみを呈した Fisher 症候群の 1 例 12. Crowned dens 症候群の CT 所見 13. 非アルコール性脂肪性肝炎の経過中に筋強直性ジストロフィーと診断された 1 例 14. 透析患者に発症したアシクロビル脳症の 1 例 15. 脊髄梗塞の 1 例 16. 髄液より莢膜型 23Ａ肺炎球菌が検出された髄膜炎の 1 例 17. A cace of myasthenia gravis in which the interval to repeated exacerbation was prolonged by L-carnitine 18. 髄膜炎尿閉症候群の 1 例 【以下、原著（共著　筆頭著者以外)】 19. 歯状核赤淡蒼球ルイ体萎縮症（DRPLR）の MRI 所見 20. 頭部 MRI で異常を認めた Kearns-Sayre-Shy 症候群の 1 例 21. 経過中脳梗塞を併発した、肺炎球菌性髄膜炎の 1 例 22. 足背の浮腫出現が契機で診断し得た Churg-Strauss 症候群の 1 例 23. Vertiginous epilepsy の 1 例 24. MRI 拡散強調画像が有効であった急性期脳梗塞の 6 例	

	25. <シンポジウムⅡ-4>脳血管障害診療の進歩　CADASIL：本邦における CADASIL ならびに類似疾患の臨床解析 26. 急性横断性脊髄障害で発症し、白質ジストロフィー様の画像を呈した血管内悪性リンパ腫症の１剖検例 27. Mutations of Notch3 gene in non-Cucasian patients with suspected CADASIL syndrome 28. 脳卒中の病型・病巣別リハビリテーション心原性脳塞栓症 29. Overexpression of P104L mutant caveolin-3 in mice develops hypertrophic cardiomyopathy with enhanced contractility in association with increased endothelial nitric oxide synthase activity. 30. Reduced amplitude of sural nerve sensory action potential in PARK2 patients. 31. もの忘れ外来開設後１年の現状報告 32. 球脊髄性筋委縮症（ポリグルタミン病）の１剖検例 33. Fulminant Type 1 Diabetes Mellitus Complicated with a Life-threatening Electrolyte Abnormality and Abnormal Electrocardiogram Findings 【以下、学会発表】 34. 眼球運動障害のみを呈した Fisher 症候群の１例 35. 片頭痛に対する凍結乾燥豆腐（高野豆腐）療法の効果の検討 36. Crowned dens 症候群の１例 37. Crowned dens 症候群の１例 38. NASH の経過中に筋強直性ジストロフィーと診断された１例 39. 透析患者に発症したアシクロビル脳症の１例 40. 髄液より莢膜型 23Ａ肺炎球菌が検出された髄膜炎の１例 41. 寛解と憎悪を繰り返し, L-carnitine 投与により憎悪までの期間が延長した重症筋無力症の１例
学会及び社会における活動等	日本内科学会、日本神経学会、日本頭痛学会、日本神経治療学会、日本神経感染症学会

教員名	畑　伸秀	学位等	博士（医学）修士（学術）	職名	教授

担当科目	公衆衛生学Ⅰ、公衆衛生学Ⅱ、公衆衛生学Ⅲ	
専門分野	解剖学、生命倫理学、遺伝子学	
最終学歴	昭和 61 年 3 月	新潟医療技術専門学科校臨床検査技師科卒業
	平成 6 年 3 月	富山大学経済学部経営法学科卒業（経済学士：第 8499 号）
	平成 21 年 3 月	放送大学大学院文化科学研究科文化科学専攻政策経営修士課程修了（学術修士：第 2286 号）
	平成 29 年 3 月	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科博士課程修了（博士（医学）：第 2367 号）
これまでの主な経歴	昭和 61 年 12 月	市立砺波総合病院臨床検査科臨床検査技師:病理解剖、生理機能検査（昭和 63 年 6 月まで）
	昭和 63 年 6 月	富山医科薬科大学医学部法医学科教務職員：教育職一:助手解剖学・病理学・遺伝子学(生化学)、研究分野：法医学研究、血液型遺伝子研究、生理学研究（平成 10 年 9 月まで）
	平成 11 年 10 月	新湊市民病院検査科主任臨床検査技師：病理解剖、生理機能検査、生化学検査、微生物学検査（平成 13 年 9 月まで）
	平成 13 年 10 月	富山医科薬科大学遺伝子実験施設研究協力推進員：遺伝子学(生化学)、遺伝子検査額実験（平成 17 年 3 月まで）
	平成 18 年 4 月	東武医学技術専門学校臨床検査科専任講師：公衆衛生学、組織学、病理検査学、病理検査学実習、寄生虫学、精度管理学、臨床検査技師国家試験対策.（平成 24 年 3 月まで）
	平成 24 年 4 月	北里大学保健衛生専門学院管理栄養科専任講師、解剖生理学Ⅰ、解剖生理学Ⅱ、解剖生理学実習、臨床検査学、管理栄養士国家試験対策.（平成 26 年 3 月まで）
	平成 24 年 9 月	関東信越厚生局による管理栄養士養成施設及び栄養士養成施設(管理栄養科）に係る指導調査実地.人体の構造および機能と疾病の成り立ち等の教育目標を含む教育内容の適格を受ける.履歴書及び研究業績書に基づき、教員資格の適格を受け、人体の構造および機能と疾病の成り立ちの講義担当を行う.適格科目：解剖生理学Ⅰ、解剖生理学Ⅱ、病理学
	平成 27 年 4 月	東海学院大学健康福祉学部管理栄養学講師：管理栄養学科(管理栄養士養成・臨床検査技師養成)：基礎栄養学、解剖学、病理検学査、病理検査学実習、遺伝子検査学、遺伝子検査学実習、血液学、血液学実習、管理栄養士国家試験対策. 健康福祉学科(臨床工学技士養成):医学概論、解剖学、病理学、心理学科(救命救急士養成・言語聴覚士養成)：解剖学、病理学（令和元年 3 月まで）
	平成 27 年 9 月	中部厚生局による管理栄養士養成施設及び栄養士養成施設(管理栄養科）に係る指導調査実地.人体の構造および機能と疾病の成り立ち等の教育目標を含む教育内容の適格を受ける.履歴書及び研究業績書に基づき、教員資格の適格を受け、人体の構造および機能と疾病の成り立ちの講義担当を行う.適格科目：解剖生理学Ⅰ、解剖生理学Ⅱ、病理学.
	令和元年 4 月	桜の聖母短期大学生活科学科食物栄養専攻准教授：栄養士養成：解剖生理学Ⅰ、解剖生理学Ⅱ、解剖生理学実験、生化学、生化学実験、運動生理学、基礎栄養学、管理栄養士国家試験対策. 教養学科目:福祉学（令和 4 年 3 月まで）
	令和 4 年 4 月	岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科教授：公衆衛生学Ⅰ、公衆衛生学Ⅱ、公衆衛生学Ⅲ（現在に至る）
	令和 5 年 4 月	岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科長（現在に至る）
これまでの主な研究業績	（学術論文） 1.Forensic plication of Angiogra phyon Injured Brain.（査読付） 2.血清中に多量の A 型物質が存在した卵巣嚢腫患者の 1 例（査読付） 3.The Effects of Alcohol Ingestion on Postural Control（査読付） 4.Influence of Alcohol In Postural Stability, Equilibrium Res Suppl（査読付） 5.刑事裁判における DNA 鑑定の科学的妥当性とその証拠能力（査読付） 6.Saliva Collection Paper for Not Only ABO Blood Grouping But Alsog DNA Typing	

	（査読付） 7.飲水過多による水中毒と判断した１解剖例（査読付） 8. 乳幼児突然死症候群を疑われた10か月男児の急死玲（査読付） 9.Transcription of human ABO histo blood group genes is dependent upon binding of transcription factor CBF/NF-Y to minisateliite Sequence（査読付） 10. Homicide patterns in the toyama prefecture（査読付） 11.富山県における積雪期間の交通死亡事故（査読付） 12.ABO式血液型遺伝子の上流域によるDNA多型について（査読付） 13. DNA polymorphisms in the 5'-flanking sequenceof human ABO bloodgroup genesand the irassociati on with the alleles（査読付） 14. Regional differences in homicide Patterns in five areas of Japan.（査読付） 15.富山県における自殺　背景が病苦等とされた調査検討（査読付） 16. 動物由来感染症の検査と検査業務について（査読付） 17. 生殖補助医療の代理出産ついて社会学から見た医療系学生の意識調査（査読付） 18. 動物由来感染症について、人を対象とした病院検査室の検査法（査読付） 19. 生殖補助医療の法整備について代理出産（代理懐胎）の民法からの位置づけ（査読付） 20. 代理出産について、日本学術会議が報告書提出する前後の意識調査¥（査読付） 21. 先天性トキソプラズマ感染症と水痘症の発生との関連性について（査読付） 22. 大学生の急性アルコール中毒による現状と各大学の取り組み（査読付） 23. 女性が妊娠するとことにより妊婦と新生児の影響への意識調査（査読付） 24. 若い女性の痩せが起こす栄養問題（査読付） 25. 東北地方と新潟県の鍋文化御比較（査読付） 26. アルコール中毒の社会的問題（査読付） 27. Comparative analysis of knowledge on schistosomiasis japonica in the local people in the former endemic area in Yamanashi Prefecture, Japan: Comparisons among the background of age and occupation（査読付） 28. 日本人の代理出産を考える.民法の視点から（査読付） 29. COVID―19禍での感染予防策の検討（査読付） （学会発表） 1.蛍光抗体法による人培養細胞による発現する血液型抗原の検索 2.多数の損傷がみられた縊死の１例 3.ズボン生地の裏面に印象されたタイヤ痕について 4.ABO式血液型とDNA型の両方に利用可能な唾液採取紙の検討 5.頚部過伸展損傷による急死した１例 6. 心筋梗塞に基づく心破裂の１症例 7.ABO式血液型研究の新しい展開 8.飲水過多による水中毒と判断した症例 9.富山県の自殺と他殺. -自殺-. 10.富山県の自殺と他殺. -他殺-. 11.生理学的検査追加７項目を中心とした中部６県の実態調査の検討 12.Homicide Patterns In the Toyama Prefecture. 13.中部６県による各施設の検査室の実態調査の報告 14.尺骨動脈切断による死亡の一剖検例 15.北陸地方における降雪期の交通事故による人体損傷の分析 16.ABO式血液型遺伝子の転写調節におけるミニサテライトの役割 17.死後の染色体検査でKlinefeiter症候群と確認できた小脳血腫の一症例 18.5'-RACE法を用いたABO式血液型遺伝子の転写開始点の検索 19.ABO式血液型遺伝子の上流域によるDNA多型について 20.富山県における自殺背景が病苦等とされた調査検討.優秀賞受賞 21.シートベルト非着用者の心破裂２例 22.ABO式血液型遺伝子の転写調節におけるDNAメチレーションの役割 23.交通死亡事故における被疑車輌観察の有用性について 24.細胞マイクロアレイウェルアレイ法によるB型肝炎ウィルス抗原特異的抗体の作成 25.Correlation between DNA alterations and p53and p16prot in expression in cancercancer cell lines. 26.Immuno logical study of patients with Cutaneous Larva migrans in Manaus, Brazil

	27.代理出産について、日本学術会議の報告書提出前後の医療学生の意識調査と法制化へ向けた検討 28.Immuno logicalcharacterization after treatment with ivermectinin the patients with cutanous larva migran in Manaus, Brazil 29.Immuno logical study of patients with cutaneous larva igrans in Manaus, Brazil 30.遺伝子検査学教育から生命倫理学への検討 31.日本人がカリフォルニア州の代理出産プログラムを選ぶ理由と問題点について 32.治療を補完する「健康食品」に関する規制と生命倫理 33.Comparative analysis of knowledge on schistosomiasis japonica in the local people in the former endemic area in Yamanashi Prefecture. 34.山梨県内の中学生1396名の日本住血吸虫症についての認知度調査結果に関する考察 35.日本住血吸虫症に対する山梨県内認知度調査 36.各国の代理母出産にかかる費用と対応 37.山梨県内中学生学年別日本住血吸虫症認知度の考察 38.カリフォルニア州の代理出産プログラムが日本人を惹きつける理由について 39. 大学、市民へのCOVID-19感染症対策のアプローチの感染症対策
学会及び社会における活動等	比較統合医療学会（理事:事務局長） 生命倫理学会 臨床病理学会 富山県警察本部刑事部長受賞感謝状 社会医学的統計調査研究及び司法･行政解剖研究 社団法人全国国民健康保険診療施設協議会（第39回全国国保地域医療学会）受賞 優秀賞 富山県における自殺背景が病苦等とされた調査検討 一般社団法人日本臨床衛生検査技師会永年職務精励者表彰

教員名	髙槻悦子	学位	準学士 管理栄養士免許 栄養教諭一種免許 健康運動指導士資格 ウォーキングトレーナー資格（メディカルフィットネス協会認定）	職名	教授

担当科目	アクティブラーニングⅠ、栄養士基礎理解、公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ、公衆栄養学実習、 公衆栄養臨地実習、 総合演習	
専門分野	公衆栄養学	
最終学歴	昭和 55 年 3 月	岡山県立短期大学　食物科　卒業
これまでの主な経歴	昭和 55 年 4 月 1 日 平成 3 年 6 月 16 日 平成 6 年 4 月 1 日 平成 13 年 4 月 1 日 平成 18 年 4 月 1 日 平成 22 年 4 月 1 日 平成 24 年 4 月 1 日 平成 27 年 4 月 1 日 令和 3 年 4 月 1 日 令和 5 年 4 月 1 日	倉敷市役所　衛生局福祉部老人福祉課　養護老人ホーム倉敷市長楽荘　勤務（栄養士） 倉敷学校給食共同調理場（栄養技師） 倉敷市立第一福田小学校（栄養技師） 倉敷市立多津美中学校（栄養技師） 学校教育部　学校保健課（現保健体育課）（学校給食係主任） 保健福祉局　倉敷市保健所健康づくり課 食育推進係係長 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科講師（平成 27 年 3 月まで） 同　特別専任講師（令和 3 年 3 月まで） 同　特別専任准教授（令和 5 年 3 月まで） 同　特別専任教授（現在に至る）
これまでの主な業績	1 養護老人ホーム入所者の嗜好カルテ作成 2 大規模調理場における給食指導の実践 3 各学年に応じた指導計画と実践 4 家庭科での TT 授業の実践 5 衛生指導時の ATP ふき取り検査と給食施設の衛生について 6 幼児期の食生活の現状からみた健診時の保護者への効果的な支援について 7 1 歳 6 ヶ月児健康診査での効果的な指導について 8 老人クラブ会員の身体状況と食事摂取量および運動量に関する調査 保健福祉局倉敷市保健所健康づくり課食育推進係 （倉敷市食育推進計画の評価報告書、第二次倉敷市食育推進計画、第二次倉敷市食育推進計画平成 23 年度事業実施計画）	
学会及び社会における活動等	日本栄養士会会員（現在に至る） 日本栄養改善学会会員（現在に至る） 日本公衆衛生学会会員（現在に至る） 日本健康運動指導士会会員（現在に至る） 岡山県食の安全・食育推進協議会オブザーバー 倉敷市食育推進会議（事務局）倉敷市食育推進計画策定等幹事会（事務局） 倉敷市食育推進計画策定等幹事会（事務局）倉敷市栄養改善協議会理事会の事務局担当 栄養教室の開催と、栄養委員の育成 伝達講習会の支援	

教員名	津村哲司	学位	農学修士	職名	准教授

担当科目	食品学各論、食品学各論実験Ⅰ・Ⅱ、 食品加工学Ⅰ・Ⅱ、食品加工学実習、 食品品質管理論、食品分析学	
専門分野	食品加工	
最終学歴	平成 3 年 3 月	香川大学大学院農学研究科食品学専攻修了（　修第２９５号　）
これまでの主な経歴	平成 3 年 4 月 平成 4 年 4 月 平成 11 年 4 月 平成 19 年 4 月 平成 22 年 4 月 平成 22 年 4 月 平成 22 年 4 月 平成 24 年 4 月 平成 26 年 4 月	瀬戸内短期大学　食物栄養学科　助手（食品加工学・同実習、バイオテクノロジー概論等） 瀬戸内短期大学　食物栄養学科　講師（食品加工学・同実習、バイオテクノロジー概論等） 瀬戸内短期大学　食物栄養学科　助教授（食品加工学・同実習、バイオテクノロジー概論食品学・生化学実験等） 学校教育法の改正により准教授となる 瀬戸内短期大学閉学により退職 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科非常勤講師（食品学各論・同実験、食品加工学）「平成 26 年 3 月まで」 四国医療専門学校非常勤講師（栄養学） 香川短期大学非常勤講師（栄養学、生化学等）「現在に至る」 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科特別専任准教授「現在に至る」
これまでの主な研究業績	（著書） 1 Production of D-psicose from D-taritol,D-tagatose or D-galactitol by Alkalidenes sp. 701B 2 Pseudomonas cichorii ST-24 株による D-galactitol あるいは D-tagatose からの D-sorbose の生産 3 Fusarium solani PM-1 の糖質に対する資化性に関する研究 4「讃岐うどん」の嗜好性に関する分析的研究 5 学生を対象とした緑茶についての調査 6 アロエ・ベラ（Aloe Barbadensis Miller）の一般食品成分 7 病態別にみたさぬきうどんを含む理想的献立 8 ミラクルフルーツの錠剤食品への応用 9 ミラクルフルーツのタブレット化技術の改良について 10 ミラクリンを含む味覚修飾用可食性フィルムの開発 11 食生活改善に向けた新手法の開発−味覚教育からのアプローチ− 12 味覚教育が学生の食意識に及ぼす影響 13　ギムネマ１人１鉢栽培による味覚への意識向上－愛知中学校２年生での教育活動について－（調査報告）	
学会及び社会における活動等	日本うどん学会　正会員 平成 17 年より理事 平成 22 年より監事「現在に至る」 日本味と匂学会　正会員「現在に至る」 日本食育学会　　正会員「現在に至る」 （委員の委嘱又は社会における活動等） 四国 B 級ご当地グルメ連携協議会　幹事「現在に至る」	

教員名	佐藤幸枝	学位等	学士 管理栄養士免許 介護支援専門員 健康咀嚼指導士 在宅管理栄養士 日本慢性期医療協会「栄養サポートチーム研修会NST資格」 JDA-DAT(日本栄養士会災害支援チームリーダー)	職名	准教授

担当科目	アクティブラーニングⅡ、栄養士基礎理解、給食経理管理論Ⅰ・Ⅱ、給食経営管理実習Ⅰ・Ⅱ、給食経営管理実習事前事後、 給食経営管理臨地実習Ⅰ・Ⅱ、 総合演習	
専門分野	摂食嚥下リハビリテーション	
最終学歴	昭和56年3月	同志社女子大学家政学部食物学科管理栄養士専攻課程卒業
これまでの主な経歴	昭和56年4月 昭和58年4月 平成13年12月 平成30年4月 令和4年4月	㈱日食入社　栄養食品アドバイザー（昭和58年3月まで） 明治製菓㈱栄養アドバイザー（昭和60年12月） 社会福祉法人薫風会　特別養護老人ホームみどり荘　管理栄養士主任（平成30年3月まで） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科専任講師（令和4年3月まで） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科専任准教授（現在に至る）
これまでの主な研究業績	（著書） 冷凍保存でかんたん嚥下食　共著 （その他） 1.給食経営管理における集団給食の向上を目指して 2.摂食嚥下機能の向上における給食の役割 3.給食管理の品質を向上するためには 4.給食経営管理における効率について 5.給食経営管理実習における献立内容の検討 6.給食管理のなかでの高齢者の食べたいを支える仕組みづくり	
学会及び社会における活動等	日本静脈経腸栄養学会 摂食嚥下リハビリテーション学会 日本在宅栄養管理学会 日本人間健康栄養協会 倉敷市長表彰（栄養改善事業功労） 岡山県保健福祉部長表彰（栄養改善事業功労） 岡山県知事表彰	

教員名	原田　俊孝	学位	修士（経営学）	職名	准教授

担当科目	教育の方法及び技術、教学マネジメント	
専門分野	経営学、情報処理、キャリアデザイン	
最終学歴	平成 23 年 3 月	大東文化大学大学院経営学研究科経営学専攻（博士前期課程）
これまでの主な経歴	平成 23 年 4 月 平成 25 年 3 月 平成 25 年 4 月 平成 30 年 4 月 令和 2 年 4 月 令和 3 年 4 月 令和 4 年 4 月 令和 4 年 4 月	岡山短期大学幼児教育学科　助教 学校法人原田学園評議員（現在に至る） 岡山学院大学・岡山短期大学　学園主事・総務課長（現在に至る） 岡山短期大学幼児教育学科　講師（令和 4 年 3 月まで） 岡山学院大学・岡山短期大学　事務部長（現在に至る） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 講師（令和 4 年 3 月まで） 岡山学院大学・岡山短期大学　准教授・副学長（現在に至る） 学校法人原田学園理事・副理事長（現在に至る）
これまでの主な研究業績	（学術論文等） 1.短期大学のキャリアガイダンスにおけるシステム認識プロセスの適用の一考察 2.学校教育における情報機器の活用と課題 3.岡山短期大学幼児教育学科 Society 5.0 保育者養成コース開設（共著・岡山学院大学・岡山短期大学紀要第 44 号） 4.Society 5.0 への取り組み (1)―岡山短期大学幼児教育学科での実践 ―（共著・岡山学院大学・岡山短期大学紀要第 44 号） 5.Society 5.0 への取り組み (2) ―岡山短期大学幼児教育学科での実践 ―（共著・岡山学院大学・岡山短期大学紀要第 44 号）	
学会及び社会における活動等	日本キャリアデザイン学会	

教員名	内田雅子	学位等	学士（家政学） 管理栄養士免許 栄養士免許	職名	講師

担当科目	アクティブラーニングⅠ、栄養士基礎理解、プレゼンテーション、栄養教育論Ⅰ・Ⅱ、 栄養教育管理、 栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱ、総合演習	
専門分野	栄養学、食物摂取頻度調査、食意識、栄養表示	
最終学歴	平成 6 年 3 月	ノートルダム清心女子大学家政学部食品・栄養学科　卒業
これまでの主な経歴	平成 6 年 4 月 平成 9 年 4 月 平成 17 年 3 月 平成 19 年 4 月 平成 26 年 4 月 平成 27 年 4 月 平成 29 年 7 月 令和 2 年 4 月	岡山県赤磐郡山陽町役場就職　山陽総合福祉センター配属 岡山県赤磐郡山陽町役場民生部保健福祉課保健係へ移動 市町村合併により赤磐市市役所保健福祉部保健福祉課健康増進課主任 保健福祉部健康増進課主査 保健福祉部健康増進課主幹 赤磐市吉井支所保健福祉部健康福祉課へ移動 赤磐市役所保健福祉部健康増進課へ移動　現在に至る 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科　専任講師　現在に至る
これまでの主な研究業績	（学術論文） １母親学級実践報告 ２幼児を対象にした食生活講座の効果的な実施について ３栄養の日の取り組み（その他） （その他） デイサービス利用者の昼食栄養管理 乳児健診、健康相談、特定保健指導、重症化予防の健康教室など市民の健康増進に関わる事業を実施。栄養委員の育成を行い地域で健康づくりを行うボランティア組織の育成。健康増進計画、データヘルス計画の策定。 平成 17 年の合併以降は 4 名の栄養士の統括をしてきた。	
学会及び社会における活動等	日本公衆衛生学会	

教員名	平野　聡	学位	学士（栄養学） 修士（臨床栄養学） 管理栄養士免許 栄養サポートチーム専門療法士	職名	講師

担当科目	キャリアガイダンス、 アクティブラーニングⅡ、栄養士基礎理解、臨床栄養学Ⅱ・Ⅲ、臨床栄養学実習、臨床栄養学演習、 臨床栄養臨地実習、総合演習	
専門分野	臨床栄養学	
最終学歴	平成 20 年 3 月 令和 3 年 3 月	岡山学院大学　人間生活学部　食物栄養学科　卒業 川崎医療福祉大学大学院 医療技術学研究科 臨床栄養学専攻 修士課程 修了
これまでの主な経歴	平成 20 年 4 月 平成 22 年 5 月 平成 22 年 10 月 平成 22 年 11 月 平成 29 年 4 月 令和 3 年 4 月	株式会社ザグザグ 株式会社富士薬品 医療法人社団島谷病院　管理栄養士 島谷病院副診療部栄養科　責任者 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科　助教 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科　講師（現在に至る）
これまでの主な研究業績	（学術論文） 1. 老人クラブに所属する地域在住高齢者における栄養状態 （その他） 1. 嚥下食の成形についての報告 2. 当院の食事提供への取り組み 3. 難治性下痢症状に対しペクチン含有濃厚流動食を使用した介入の報告 4. 地域包括ケアシステムにおける管理栄養士の役割についての検討 5. 特別養護老人ホームにおける嚥下調整食のテクスチャー評価 6. 特別養護老人ホームにおける嚥下調整食分類 2013 の導入に関する試み 7. 地域在住高齢者の栄養状態の実態 8. 地域在住高齢者のサルコペニアの該当者率と食品摂取との関連	
学会及び社会における活動等	日本臨床栄養代謝学会 日本栄養士会 岡山県栄養士会 日本栄養改善学会 川崎医療福祉学会	

教員名	塩津敦子	学位等	学士(栄養学) 管理栄養士免許 栄養教諭一種免許	職名	講師

担当科目	学校栄養指導Ⅰ・Ⅱ、事前・事後指導、栄養教育実習、教育の方法及び技術	
専門分野	栄養学	
最終学歴	平成 11 年 3 月	岡山県立大学　保健福祉学部 栄養学科　卒業
これまでの主な経歴	平成 11 年 4 月 平成 14 年 4 月 平成 19 年 4 月 平成 24 年 4 月 平成 26 年 4 月 平成 27 年 4 月 平成 30 年 4 月 平成 30 年 11 月 令和 3 年 4 月	阿哲郡大佐町立学校給食共同調理場（現　新見市立大佐学校給食共同調理場）勤務 （学校栄養技師） 総社市立総社西学校給食共同調理場 勤務　（学校栄養技師） 倉敷市立味野中学校 勤務　（学校栄養技師→学校栄養主任） 倉敷市立万寿小学校 勤務　（栄養教諭） 倉敷市教育委員会　保健体育課 勤務　（主任） 倉敷市立連島南小学校 勤務　（栄養教諭）　平成 29 年度末退職 倉敷市立富田小学校 新規採用学校栄養職員研修指導員（倉敷市教育委員会非常勤講師） 川崎医療福祉大学　医療技術学部 臨床栄養学科 勤務　（非常勤講師） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科特別専任講師（現在に至る）
これまでの主な研究業績	(研究発表) 1. 小教研倉敷支会健康教育部研究発表会 (共同研究) 1. 小教研倉敷支会健康教育部研究発表会	
学会及び社会における活動等	岡山県学校栄養士会会員	

教員名	岡田只士	学位	修士（農学） 博士（理学）	職名	講師

担当科目	基礎栄養学、基礎栄養学実験、応用栄養学、応用栄養学実習、総合演習	
専門分野	食品科学、応用健康科学、実験動物学	
最終学歴	2006年3月	北海道大学大学院 理学研究科 化学専攻 博士課程 修了
これまでの主な経歴	2006年5月 2008年4月 2011年9月 2015年4月 2016年5月 2019年4月 2020年4月 2021年4月 2021年4月 2023年4月	財団法人　精神・神経科学振興財団　リサーチ・レジデント（2008 年 3 月まで） 川崎医科大学 神経内科学教室 研究員（2011 年 8 月まで） 帯広畜産大学 原虫病研究センター　特任研究員（2015 年 3 月まで） 中部大学 生命健康科学部 生命医科学科 期限付研究嘱託（2016 年 3 月まで） 宮崎大学 医学部内科学講座 神経呼吸内分泌代謝学分野 研究員（2018 年 3 月まで） 富山県立大学　くすりのシリコンバレーTOYAMA　嘱託研究員(2020年3月まで) 富山県立大学 工学部　医薬品工学科　特定助教（2021 年 3 月まで） 公益財団法人ときわ会　先端医学研究センター（RIIM）　研究員（2023 年 3 月まで） 医療創生大学　地域連携センター　特任講師（2023 年 3 月まで） 岡山学院大学 人間生活学部 食物栄養学科 講師
これまでの主な研究業績	学術論文 1. Signal Transduction Cascade between EvgA/EvgS and PhoP/PhoQ Two-Component Systems of Escherichia coli（査読付） 2. Nagelamides A-H, New Dimeric Bromopyrrole Alkaloids from Marine Sponge Agelas Species（査読付） 3. Analysis of isoform specific function of PP1 catalytic subunits in mammalian cells using siRNA（査読付） 4. The oncoprotein I-2PP2A/SET negatively regulates the MEK/ERK pathway and cell proliferation（査読付） 5. pp32/I-1PP2A negatively regulates the Raf-1/MEK/ERK pathway（査読付） 6. Manzamenones Inhibit T-Cell Protein Tyrosine Phosphatase（査読付） 7. Caveolin-3 regulates myostatin signaling. Mini-review（査読付） 8. MRL-MpJ創傷治癒形質導入はデュシェンヌ型筋ジストロフィーモデルマウスの骨格筋病変を改善する（査読付） 9. Rapid screening for Japanese dysferlinopathy by fluorescent primer extension（査読付） 10. Endoplasmic reticulum stress response in P104L mutant caveolin-3 transgenic mice（査読付） 11. An inhibitor of transforming growth factor beta type I receptor ameliorates muscle atrophy in a mouse model of caveolin 3-deficient muscular dystrophy（査読付） 12. A novel dense granule protein, GRA22, is involved in regulating parasite egress in Toxoplasma gondii.（査読付） 13. Seroprevalences of Toxoplasma gondii and Neospora caninum in Pet Rabbits in Japan（査読付） 14. The inhibitory core of the myostatin prodomain: Its interaction with both type I and II membrane receptors, and potential to treat muscle atrophy（査読付） 15. Mycophenolic Acid and Its Derivatives as Potential Chemotherapeutic Agents Targeting Inosine Monophosphate Dehydrogenase in Trypanosoma congolense.（査読付） 16. Kinetic analysis of specific antibodies in serum and urine of experimentally Encephalitozoon cuniculi-infected rabbits.（査読付） 17. Canagliflozin, a sodium glucose cotransporter 2 inhibitor, attenuates obesity-induced inflammation in the nodose ganglion, hypothalamus, and skeletal muscle of mice.（査読付） 18. Identification and characterization of guanosine 5′-monophosphate reductase of Trypanosoma congolense as a drug target.（査読付） 19. Restoration of metabolic inflammation-related ghrelin resistance by weight loss（査読付）	

	20. Analysis of peripheral ghrelin signaling via the vagus nerve in ghrelin receptor-restored GHSR-null mice（査読付） 21. Impaired adaptation of energy intake induces severe obesity in aged mice on a high-fat diet（査読付） 22. Repurposing Existing Drugs: Identification of Irreversible IMPDH Inhibitors by High-Throughput Screening（査読付） 23. CREG1 administration stimulates BAT thermogenesis and improves diet-induced obesity in mice（査読付） 24. CREG1 improves diet-induced obesity via uncoupling protein 1-dependent manner in mice（査読付） その他の論文 1. 大腸菌２成分制御系 EvgAS による PhoP レギュロンの制御（修士論文） 2. セリン/スレオニン残基特異的プロテインホスファターゼ１型（PP1）および６型（PP6）触媒サブユニットの細胞内機能に関する研究（博士論文） 学会発表（一部抜粋） 1. 個体レベルにおける分泌型糖タンパク質 CREG1 の作用 2. 高脂肪食で腸と視床下部に生じた炎症と摂食量の連関 3. ビタミン D による新規炎症性腸疾患治療戦略
学会及び社会における活動等	日本分子生物学会会員 日本生化学会会員 日本肥満学会会員 日本ビタミン学会会員

教員名	小松正直	学位	修士（理学） 博士（理学）	職名	講師

担当科目	基礎数学、データサイエンスⅠⅡ、ICT リテラシーⅠⅡ、情報処理基礎、情報処理演習 ICT リテラシー（A）（B）	
専門分野	地震学	
最終学歴	2018 年 9 月	岡山大学大学院自然科学研究科地球生命物質科学専攻博士後期課程修了
これまでの主な経歴	2018 年 10 月 2019 年 4 月 2019 年 4 月 2023 年 4 月	岡山大学大学院自然科学研究科博士研究員（2019 年 3 月まで） 岡山大学大学院自然科学研究科非常勤研究員（2023 年 3 月まで） 岡山理科大学生物地球学部非常勤講師（現在に至る） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科講師
これまでの主な研究業績	（学術論文） １．西南日本の三次元 P 波減衰構造（査読付） ２．焼きなまし法による初動発震機構解の決定 ３．沖縄本島における深部地盤の S 波速度構造 ４．Quasi-Cartesian finite-difference computation of seismic wave propagation for a three-dimensional sub-global model（査読付） ５．Three-dimensional P- and S-wave attenuation structures around the source region of the 2016 Kumamoto earthquakes（査読付） ６．南西諸島における地震波減衰構造の推定とそれに基づく地震動シミュレーションのための広域地下構造モデルの構築（博士学位論文） ７．中小規模の島嶼部における深部地盤Ｓ波速度構造モデル（奄美諸島・吐噶喇列島編） ８．時間領域差分法による表層地盤の非線形応答の計算 ９．Estimation of seismic attenuation of the Greenland Ice Sheet using 3-D waveform modeling（査読付） １０．メジアンフィルターを用いた 2016 年熊本地震の断層近傍における加速度記録の基線補正と変位波形の推定 １１．地形を考慮した陸海統合 3 次元地震波速度構造モデルを用いた大分県周辺の長周期地震動シミュレーション （その他） [外部資金] １．西南日本における三次元地震波減衰構造の推定及び検証 ２．American Geophysical Union Fall Meeting 2015 における研究成果の発表 [研究報告書] １．沈み込み帯の巨大地震を対象とした大規模並列地震波・津波伝播シミュレーション ２．海溝型巨大地震を対象とした大規模並列地震波・津波伝播シミュレーション ３．海溝型巨大地震を対象とした大規模並列地震波・津波伝播シミュレーション ４．海溝型巨大地震を対象とした大規模並列地震波・津波伝播シミュレーション ５．地盤の非線形応答を考慮した地震波シミュレーション：強震動予測と震源過程解析 ６．大規模並列地震波シミュレーションに基づく南西諸島における 地震発生メカニズムの高精度解析 ７．大規模地震波シミュレーションを用いた 2011 年東北地方太平洋沖地震の震源域構造モデルの波形トモグラフィー ８．大規模地震動シミュレーションに基づく南西諸島域の高精度震源解析 ９．大規模地震波シミュレーションによる沈み込み帯の波形トモグラフィー:2011 年東北地震震源域と南西諸島域 １０．大規模地震動シミュレーションに基づく南西諸島域の高精度震源解析 [学会発表] 1. 中国・四国地方の三次元 S 波減衰構造 ２．西南日本の三次元地震波減衰構造 ３．Three-dimensional Seismic Attenuation Structure Beneath Southwest Japan ４．沖縄先島諸島における P 波減衰構造 ５．簡便なコーナ周波数 fc の推定法と減衰量 t*の決定 ６．長大距離地震波動伝播シミュレーションのための地球の曲率を考慮した計算スキーム ７．2014 年 3 月 14 日伊予灘稍深発地震の初期段階の破壊過程 ８．南西諸島における三次元地震波減衰トモグラフィ ９．Quasi-Cartesian Finite-Difference Computation of Seismic Wave Propagation for a	

	Three-Dimensional Sub-global Earth Model １０．Three-Dimensional Seismic Attenuation Structure in the Ryukyu Arc, Japan １１．3 次元及び 2 次元震源イメージングから推定した 2014 年伊予灘稍深発地震の初期段階の破壊過程 １２．南西諸島の広帯域地震波形データを用いたレシーバ関数解析 １３．2015 年大分県南部地震(Mj5.7)における大分県周辺の長周期地震動シミュレーションと地下構造モデルの検討 １４．焼きなまし法を用いた初動発震機構解の決定 １５．2016 年熊本地震初期破壊過程のイメージング １６．南西諸島の広帯域地震波形データを用いた S-wavevector レシーバ関数解析 １７．2016 年熊本地震震源域周辺の三次元地震波減衰構造 １８．沖縄本島における深部地盤のＳ波速度構造 １９．Seismic imaging of receiver functions at virtual receivers in Ryukyu arc, Japan ２０．Imaging of Initial Rupture Process of the 2016 Kumamoto, Japan, Earthquake ２１．地震波干渉法を用いた別府湾周辺地域における深部地盤構造モデルの検証 ２２．2016 年熊本地震の強震記録を用いた岡山県内のサイト特性の評価 ２３．アレイ解析による 2016 年 4 月 16 日大分誘発地震の震源の推定 ２４．S-wave structure in the Nansei Islands, Japan, inferred from microtremor array explorations ２５．Early rupture process of the 2016 Kumamoto earthquake inferred from source imaging ２６．Three-dimensional P- and S-wave attenuation tomography in the Ryukyu Arc, Japan ２７．地震波減衰トモグラフィから見る 2016 年熊本地震震源域下の流体分布 ２８．南西諸島における連続地動記録を用いた雑微動の相互相関解析 ２９．別府湾周辺における微動の連続観測記録を用いた深部地盤構造の検証 ３０．2 次元線形分散津波方程式の効率的な計算：スキーム編 ３１．2 次元線形分散津波方程式の効率的な計算：計算編 ３２．遠地津波のための線形分散波方程式を効率的に解く新しい方法 ３３．3 次元不均質構造モデルを用いた 2016 年大分県由布で発生した地震の CMT インバージョン ３４．岡山県内の震度観測網, K-NET, KiK-net の観測点におけるサイト増幅特性の抽出 ３５．南西諸島における震源スケーリング ３６．スペクトル・インバージョンに基づく岡山県内の強震観測点におけるサイト増幅特性 ３７．3 次元理論地震波形計算によるグリーンランド氷床の Q 値の推定 ３８．津波の非線形分散波方程式を効率的に解く新スキームの開発 ３９．地球の曲率を考慮した 3 次元構造モデルに基づく地震動・地殻変動・津波統合シミュレーション ４０．2018 年北海道胆振東部地震の初期段階の破壊過程 ４１．中小規模の島嶼部における深部地盤Ｓ波速度構造モデル（奄美諸島・吐噶喇列島編） ４２．Efficient new scheme solving the linear and nonlinear dispersive wave equations for near- and far-field tsunamis ４３．Q-factor estimation for Greenland ice sheet using 3-D seismic waveform modeling ４４．南西諸島における P 波・S 波減衰構造 ４５．岡山県全域の地盤構造の推定 ４６．ソース・イメージング法を用いた 2019 年山形県沖の地震における初期段階の破壊過程の推定 ４７．3 次元不均質構造モデルを用いた 2016 年大分県由布の誘発地震の余震の CMT インバージョン ４８．平面波入射を仮定しないで、地表地震動から地中の入射波を算定する方法 ４９．2019 年山形県沖の地震の初期破壊過程 ５０．地表の観測記録から平面波入射を仮定しないで地中の地震動分布を求める方法の検討 ５１．近地強震波形記録を用いた 2016 年大分県中部の地震の CMT 解析 ５２．2D・3D ソースイメージング法を用いた 2018 年北海道胆振東部地震の初期破壊過程の推定 ５３．2016 年熊本地震で観測された長周期速度パルスの生成に関する理論的解析

	５４．強震波形記録と海陸統合 3 次元地下構造モデルを用いた沖縄本島近海で発生した地震の CMT 解析 ５５．地表観測記録を用いた地中地震動の推定：深い評価点における検討 ５６．2016 年熊本地震で誘発された大分県中部の地震の初動読み取りと震源決定 ５７．地表観測記録を用いた地中地震動の推定（2）：定量的な評価に基づく手法の改良 ５８．CMT 解による観測点補正値を用いた沖縄本島南東沖の地震の震源再決定
学会及び社会における活動等	日本地震学会 日本地球惑星科学連合 物理探査学会 日本地震工学会 Seismological Society of America American Geophysical Union

教員名	氏峰栞里	学位	博士（健康科学） 栄養士免許 管理栄養士免許 パンシェルジュ検定３級取得	職名	講師

担当科目	調理学Ⅰ・Ⅱ、 調理学実習Ⅰ・Ⅱ、アクティブラーニングⅡ、栄養士基礎理解、食物基礎科学、フードコーディネート	
専門分野	栄養学、医歯薬学、調理学	
最終学歴	2017 年 3 月	川崎医療福祉大学 大学院　医療技術学研究科　健康科学専攻　修了
これまでの主な経歴	2017 年 4 月 2020 年 10 月 2023 年 4 月	九州栄養福祉大学食物栄養学部食物栄養学科　助教（2020 年 3 月まで） 中国学園大学現代生活学部人間栄養学科　助教（2023 年 3 月まで） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科講師
これまでの主な研究業績	（学術論文） 1.（学士論文）消毒薬二酸化塩素の黄色ブドウ球菌に及ぼす影響 2.(修士論文)次亜塩素酸ナトリウムの黄色ブドウ球菌に対する抗菌効果ならびに作用機序に関する検討 3.（博士論文)次亜塩素酸ナトリウムの抗黄色ブドウ球菌作用に関する研究 （査読付き学術論文） 1. Morphological changes in Staphylococcus aureus induced by treatment of sodium hypochlorite. （学会発表） 第 57 回 日本ブドウ球菌研究会(東京) 第 65 回 日本細菌学会中国・四国支部総会(徳島) 第 28 回 日本環境感染学会総会(横浜) 第 86 回 日本細菌学会総会(千葉) 第 69 回　日本顕微鏡学会学術講演会(大阪) The 28th International Congress of Chemotherapy (ICC) and Infection (横浜) 第 34 回 日本食品微生物学会学術集会(東京) 第 61 回 日本化学療法学会西日本支部総会(大阪) 第 31 回 中国地区インフェクションフォーラム(岡山) International Microscopy Congress (IMC) 2014(プラハ) 第 62 回 日本化学療法学会西日本支部総会(岡山) 第 11 回 日本栄養学教育学会学術集会　(岡山)	
学会及び社会における活動等	日本細菌学会 中国・四国支部会員 一般社団法人 日本環境感染学会会員 公益社団法人 日本顕微鏡学会会員 公益社団法人 日本化学療法学会 西日本支部会員 公益社団法人 日本栄養士会	

教員名	堀口のぞみ	学位	修士（教育学）	職名	講師

担当科目	生涯学習概論、キャリアガイダンス、 教育原理、教師論、教育制度論、教育課程論、 教職実践演習（栄養教諭）	
専門分野	教育学・教育哲学	
最終学歴	平成 28 年 3 月 令和 3 年 3 月	広島大学大学院教育学研究科教育学専攻博士前期課程修了 修士（教育学） 広島大学大学院 教育学研究科教育学習科学専攻 博士後期課程中途退学
これまでの主な経歴	平成 28 年 9 月 平成 29 年 4 月 平成 30 年 4 月 令和 5 年 4 月	広島県三次看護専門学校非常勤講師(教育学担当)(平成 28 年 12 月まで) 広島県呉市医師会看護専門学校非常勤講師(哲学担当)(平成 29 年 6 月まで) 日本学術振興会 特別研究員 DC2 社会科学（教育学)(令和 3 年 3 月まで) 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科講師
これまでの主な研究業績	(学術論文) 1. 後期 H. アレントの思考論における責任概念の位置 2. I. ヤングの正義論の教育学的射程―構造的不正義に関する市民育成の観点から― 3. I.M.ヤングのフェミニスト現象学的身体論の教育学的意義 (学会発表) 1. 未来志向的責任論の教育学的意義―I. ヤングの未来志向的責任論概念を H. アレントの集団責任概念と対峙して― (第 59 回 教育哲学会、東京大学) 2. The Limitation of Hannah Arendt’s Consideration on Thinking (Asian Link of Philosophy of Education) (National Chiayi University, Taiwan) 3. Young‘s Reinterpretation of Arendt’s Conception of Collective Responsibility (Asian Link of Philosophy of Education) (Seoul National University, Korea) 4. Iris Young Conception of Political Responsibility (International Postgraduate Roundtable and Research Forum cum Summer School 2018 (The Education University of Hong Kong) (その他) 日本学術振興会（JSPS）科学研究費助成事業（KAKEN）特別研究員（DC2） 課題番号:18J13991「現代責任論の責任概念分析とその教育学的意義」 (教育実践記録等) 1. 自治体における栄養教諭配置状況の格差の現状と制度的課題 2. 栄養教諭養成のためのカリキュラム編成における今日的課題	
学会及び社会における活動等	中国四国教育学会会員 教育哲学会会員	

教員名	坂本沙祐里	学位	学士（薬学） 薬剤師	職名	助教

担当科目	基礎化学、生化学ⅠⅡ、生化学実験、食物基礎科学	
専門分野	ライフサイエンス / 機能生物化学	
最終学歴	2014 年 9 月	就実大学薬学部薬学科　卒業　学士（薬学）
これまでの主な経歴	2018 年 9 月 2019 年 9 月 2020 年 3 月 2020 年 9 月 2022 年 6 月 2022 年 9 月 2023 年 4 月	就実大学就実短期大学　スチューデント・アシスタント 就実大学就実短期大学　ティーチング・アシスタント 医療法人社団　良友会　山陽病院　(2022 年 1 月まで) 就実大学就実短期大学　ティーチング・アシスタント 株式会社マスカット薬局　(2023 年 2 月まで) 就実大学就実短期大学　ティーチング・アシスタント 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科助教
これまでの主な研究業績	（学術論文） 1.マラリア原虫小胞体局在性 Ca2＋結合性タンパク質の大腸菌を用いた高発現及び精製の検討 2.Functional expression and characterization of EF-hand endoplasmic reticulum-resident calcium-binding Protein, PfERC from Plasmodium falciparum in Escherichia coli for crystallization. 3.Expression and purification of EF-hand endoplasmic reticulum-resident calcium-binding protein from Plasmodium falciparum using the E. coli Lemo21 (DE3) strain 4.マラリア小胞体局在性カルシウム結合性タンパク質、PfERC に内在する Disorder 領域の予測 （その他） 学会発表 1.新規抗マラリア薬標的タンパク質、PfERC の大腸菌を用いた発現条件の検討 2.新規抗マラリア薬標的タンパク質、PfERC の結晶化用試料の調製 3.新規抗マラリア薬標的タンパク質、PfERC の大腸菌を用いた高発現と結晶化用試料としての評価 4.Genetically engineered monomeric streptavidin for designing a new protein expression tag system based on monovalent biotin interaction 5.単量体ストレプトアビジンのタンパク質発現用タグとしての有用性について	
学会及び社会における活動等	日本薬学会 日本生物工学会 日本熱帯医学会	

四 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること（4 号関係）

（入学者に関する受入方針、入学者数、編入学者数、入学定員・収容定員、在学者数、在籍者数、卒業者数、進学者数、就職者数）

人間生活学部食物栄養学科

入学者受け入れの方針

本学に入学する人物には、次のような資質・能力を求める。

- 栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献する管理栄養士の仕事を理解している。
- 卒業後、管理栄養士として働く意思が強い。
- Society 5.0 時代に必要なスキルの修得意識が強い。
- 本学での学習に必要な一定水準の学力を身に付けている。
- 生物、化学を基礎とする学習に努力できる。

（令和５年５月１日現在）

入学者数	編入学者数	入学定員・収容定員	在学者数	在籍者数	卒業者数	就職者数	進学者数
11 人	4 人	40 人･160 人	78 人	81 人	33 人	26 人	0 人

五 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること （5 号関係）

（シラバスや年間の授業の計画の概要）

人間生活学部食物栄養学科

教育課程編成・実施の方針

管理栄養士課程として、栄養士の免許および管理栄養士の国家試験受験資格を得るための専門教育科目を編成し、実施する。

また、同時に「食品衛生資格履修コース」を専門教育科目の中に科目指定し、実施する。

栄養教諭一種免許状を得るための教職課程を編成し、実施する。

Society 5.0 時代に求める 3 つの力を汎用的学習成果として獲得させる基礎教育科目にクリエイティブ力基礎科目群、マネジメント力基礎科目群及びホスピタリティ力基礎科目群を編成し、実施する。

希望者に対して、フードスペシャリスト資格認定証、専門フードスペシャリスト資格認定証、図書館司書などが取得できるカリキュラムも編成し、実施する。

シラバス

シラバスは次の作成規則により本学公式ウエブサイトで公開している。

シラバス作成規則

（趣旨）

第１条　この規則は、岡山学院大学及び岡山短期大学の教育方針に従い、各学科の教育課程（カリキュラム）の授業科目のシラバス（教育計画）の作成について定める。

（シラバスの様式）

第２条　シラバスの様式は様式－１のとおりとする。

（教育計画年度）

第３条　シラバスには年度表示して、使用する学生の入学年度を明確にする。

（科目名）
第４条　教育課程（カリキュラム）に編成されている授業科目名を記入する。
（授業回数・単位数）
第５条　当該授業科目の授業回数と単位数を記入する。
（担当教員）
第６条　授業科目を担当する教員名を記入し、学生からの質問受付の方法として e-mail アドレス及びオフィスアワーを記入する。
２　e-mail アドレスがない場合は無記入とする。
３　オフィスアワーの記入は、時間設定の代わりに在室時は何時でも可としてもよい。
（教育目標と学生の学習成果）
第７条　教育目標は教育課程編成・実施の方針及び学生の学習成果について明確に記入する。
（授業の進め方）
第８条　授業の進め方にある講義・演習・実験・実習・実技は、いずれかを四角で囲う。その際、別紙－1，2 の授業形態を参照する。
２　予習・復習は、1 単位 45 時間の計算によって、講義：30 時間、演習：15～30 時間を課すよう授業時間以外の学習を加えること。その際、内容ごとに必要な学習時間の目安を含めて記入すること。
３　テキストの指定は授業内容に相応しいもので、高額にならないものを選択すること。
（学習評価の方法）
第９条　学習成果を明示し、「達成基準」ではなく、学習成果を測定する方法及び評価点の配点が学生に分かるよう記入する。
２　課題（試験や提出物等）に対するフィードバックの方法を記入する。
（注意事項）
第 10 条　参考図書等を記述し学生が学習しやすくする。
（授業回数別教育内容）
第 11 条　1 回から 15 回の授業内容を記入する。
２　学習内容の箇条書きではなく、「何を学び何が出来るようになるか」について教育目標と学習成果の整合性を図って記入する。該当回の授業で何を学習したかを欠席者にも分かるように記入する。
３　定期試験を含まない。

<table>
<tr><td colspan="8">令　和 □□ 年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">□□□□□□□□</td><td>授業回数</td><td>□</td><td>単位数</td><td>□</td><td>担当教員 □□□□</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー等）：□□□□@owc.ac.jp、 OH: □□□□□□□□</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標：
□□
□□□□□□
学生の学習成果：
専門的学習成果： □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□
汎用的学習成果：□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">予習事項：□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□
復習事項：□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□</td></tr>
<tr><td>テキ</td><td colspan="6">□□□□□□□□□□□□□□□</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">□□
□□□□□□
□□
□□□□□□
□□
□□□□□□</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">【参考図書】
□□
□□□□□□
□□
□□□□□□
□□
□□□□□□</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	□□ □□ □□
2回	□□ □□ □□
3回	□□ □□ □□
4回	□□ □□ □□
5回	□□ □□ □□
6回	□□ □□ □□
7回	□□ □□ □□
8回	□□ □□ □□
9回	□□ □□ □□

10 回	□□ □□□□□□ □□ □□□□□□ □□ □□□□□□
11 回	□□ □□□□□□ □□ □□□□□□ □□ □□□□□□
12 回	□□ □□□□□□ □□ □□□□□□ □□ □□□□□□
13 回	□□ □□□□□□ □□ □□□□□□ □□ □□□□□□
14 回	□□ □□□□□□ □□ □□□□□□ □□ □□□□□□
15 回	□□ □□□□□□ □□ □□□□□□ □□ □□□□□□

食物栄養学科授業科目の授業形態＆学修成果マトリックス(R5年度から)

基礎教養科目　授業形態

授業科目	講義	演習	実験 実習 実技	管理 栄養 士	栄養 教諭	クリエ イティ ブ力	マネ ジメン ト力	ホスピ タリテ ィ力
人間の発達	○					○		
日本国憲法	○				○	○		
生涯学習概論	○					○		
倉敷学	○					○		
基礎数学	○			○		○		
基礎化学	○			○		○		
基礎生物学	○			○		○		
グローバル研修		○				○		
キャリアガイダンス		○				○		
英語Ⅰ		○		○	○	○		
英語Ⅱ		○		○	○	○		

体育理論	○				○	○		
体育実技			○		○	○		
ICT リテラシーⅠ	○			○	○		○	
ICT リテラシーⅡ		○		○	○		○	
ソサエティ 5.0 理解	○			○			○	
データサイエンスⅠ		○		○			○	
データサイエンスⅡ		○		○			○	
アクティブラーニングⅠ		○		○			○	
アクティブラーニングⅡ		○		○			○	
教学マネジメント		○		○			○	
クラブ活動の活性化		○					○	
少子高齢化と諸問題	○			○				○
児童福祉概論	○			○				○
ボランティア理論	○			○				○
正しい日本語	○			○				○
栄養士基礎理解	○			○				○
社会心理学	○			○				○
臨床心理学	○			○				○

専門教育科目　授業形態

授業科目	講義	演習	実験 実習 実技	管理 栄養 士	栄養 教諭
インターネットと法	○				
食物基礎科学	○			○	
プレゼンテーション		○		○	
生活史	○				
食文化論	○				
フードコーディネート	○				
食料経済	○				
公衆衛生学Ⅰ	○			○	
公衆衛生学Ⅱ	○			○	
公衆衛生学Ⅲ	○			○	
健康管理論	○			○	
社会福祉概論	○			○	
解剖生理学Ⅰ	○			○	
解剖生理学Ⅱ	○			○	
解剖生理学実験Ⅰ			○	○	
解剖生理学実験Ⅱ			○	○	
運動生理学	○			○	
生化学Ⅰ	○			○	
生化学Ⅱ	○			○	
生化学実験			○	○	
病理学	○			○	
微生物学	○			○	
食品学総論Ⅰ	○			○	
食品学総論Ⅱ	○			○	

食品学総論実験			○	○	
食品学各論	○			○	
食品学各論実験Ⅰ			○	○	
食品学各論実験Ⅱ			○	○	
食品加工学Ⅰ	○			○	
食品加工学Ⅱ	○			○	
食品加工学実習			○	○	
食品品質管理論	○			○	
食品分析学	○			○	
調理学Ⅰ	○			○	
調理学Ⅱ	○			○	
調理学実習Ⅰ			○	○	
調理学実習Ⅱ			○	○	
調理学実習Ⅲ			○	○	
食品衛生学Ⅰ	○			○	
食品衛生学Ⅱ	○			○	
食品衛生学実験			○	○	
基礎栄養学	○			○	
基礎栄養学実験			○	○	
運動栄養学	○			○	
応用栄養学	○			○	
栄養アセスメント	○			○	
応用栄養学実習			○	○	
栄養教育論Ⅰ	○			○	
栄養教育論Ⅱ	○			○	
栄養教育管理	○			○	
栄養教育論実習Ⅰ			○	○	
栄養教育論実習Ⅱ			○	○	
臨床栄養学Ⅰ	○			○	
臨床栄養学Ⅱ	○			○	
臨床栄養学Ⅲ	○			○	
臨床栄養学実習			○	○	
臨床栄養学演習		○		○	
公衆栄養学Ⅰ	○			○	
公衆栄養学Ⅱ	○			○	
公衆栄養学実習			○	○	
給食経営管理論Ⅰ	○			○	
給食経営管理論Ⅱ	○			○	
給食経営管理実習Ⅰ			○	○	
給食経営管理実習Ⅱ			○	○	
総合演習		○		○	
給食経営管理実習事前事後			○	○	
給食経営管理臨地実習Ⅰ			○	○	
給食経営管理臨地実習Ⅱ			○	○	
公衆栄養臨地実習			○	○	
臨床栄養臨地実習			○	○	
卒業研究Ⅰ		○		○	
卒業研究Ⅱ		○		○	

教職課程(栄養教諭一種免許状)

免許法施行規則に定める科目又は科目区分		授業科目	講義	演習	実験実習実技
栄養に係る教育に関する科目		学校栄養指導論Ⅰ	○		
		学校栄養指導論Ⅱ	○		
第66条の6に定める科目	日本国憲法	日本国憲法	○		
	体育	体育理論	○		
		体育実技			○
	外国語コミュニケーション	英語Ⅰ		○	
		英語Ⅱ		○	
	情報機器の操作	ICT リテラシーⅠ		○	
		ICT リテラシーⅡ		○	
栄養・教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	○		
		教師論	○		
		教育制度論	○		
		教育心理学	○		
		特別支援の方法と理解	○		
		教育課程論	○		
	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳・特別活動・総合的な学習の時間	○		
		教育の方法及び技術		○	
		生徒指導論			○
		教育相談			○
	教育実践に関する科目	事前・事後指導			○
		栄養教育実習			○
		教職実践演習（栄養教諭）			○

令和５年度の年間の授業の計画

学年・学期・休業日

学年　４月１日～翌年３月３１日

学期　前　期　４月１日～９月１０日，後　期　９月１１日～翌年３月３１日

休業日

国民の祝日に関する法律に規定する休日

日曜日

春期休業　３月２１日～３月３１日

夏期休業　８月１日～９月１０日

冬期休業　１２月２２日～翌年１月７日

令和５年度

前期（４月１日～９月１０日）		後期（９月１１日～３月３１日）	
４月	４月１日入学式 ４月３日～６日オリエンテーション（新入生） ４月３日授業開始（新入生以外） ４月８日授業開始（新入生）	１０月	１０月１４日有城祭 １０月２７日短大開学記念日

	４月４日～１０日履修登録（新入生以外） ４月１０日～１５日履修登録（新入生）		
５月	５月３１日大学開学記念日	１１月	１１月８日学友会役員選挙
６月	６月２４日後援会総会	１２月	１２月２１日授業終了
７月	７月２５日定期試験開始 ７月３１日定期試験終了	１月	冬期休業１２月２２日～翌年１月８日 １月９日授業開始 １月２２日～１月２７日定期試験
８月		２月	
９月	９月４日～９月８日オリエンテーション期間 ９月１１日後期授業開始 ９月１１日～９月１６日履修登録	３月	３月１９日卒業式 春期休業　３月２１日～３月２３日（学則では３１日） ３月２５日～３月２９日オリエンテーション（在学生）

六 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たつての基準に関すること（6 号関係）

（必修科目、選択科目及び自由科目の別の必要単位修得数を明らかにし、取得可能な学位）

人間生活学部食物栄養学科

卒業認定・学位授与の方針

学位：学士（栄養学）

修業年限：4 年

卒業の要件

総修得単位 124 以上

イ）学部共通基礎教養科目については、22 単位以上。

ロ）学科専門科目については、70 単位以上。

管理栄養士国家試験受験資格については「専門基礎分野」38 単位、「専門分野」44 単位の総単位数 82 単位最低限必要。

Society 5.0 時代の現場に即応できる管理栄養士になるため、基礎教育科目および管理栄養士課程の専門教育科目の単位を修得し、学則に規定する卒業に必要な単位を修得した者に学位を授与する。

卒業を認める卒業生の学習成果は次のとおりである。

１．学位授与に必要な単位を修得している。

２．卒業後社会人として求められるコミュニケーション能力、態度（心構え）や職業に対する知識、理解、価値、意見を獲得している。

尚、単位認定は科目の成績評価を基礎として単位認定の教授会において、学習成果を基準に判定する。

七 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること（7 号関係）
（キャンパス概要、運動施設概要及びその他の学習環境、主な交通手段等）

新幹線を利用すれば、広島からも大阪からも１時間程度。
倉敷市周辺は、東西南北の高速自動車道が交差し、
山陰、山陽、四国のどこからでもアクセスが整っています。

駅からのアクセス

【バスでの所要時間】
JR倉敷駅からは、６番乗場・下電バス『天城小川経由児島駅行』、下電バス『天城小川経由鷲羽山行』、または７番乗場・下電バス『JR茶屋町駅行』で約15分。また、JR瀬戸大橋線・茶屋町駅から下電バス『倉敷駅行』で約10分。全て本学前下車です。

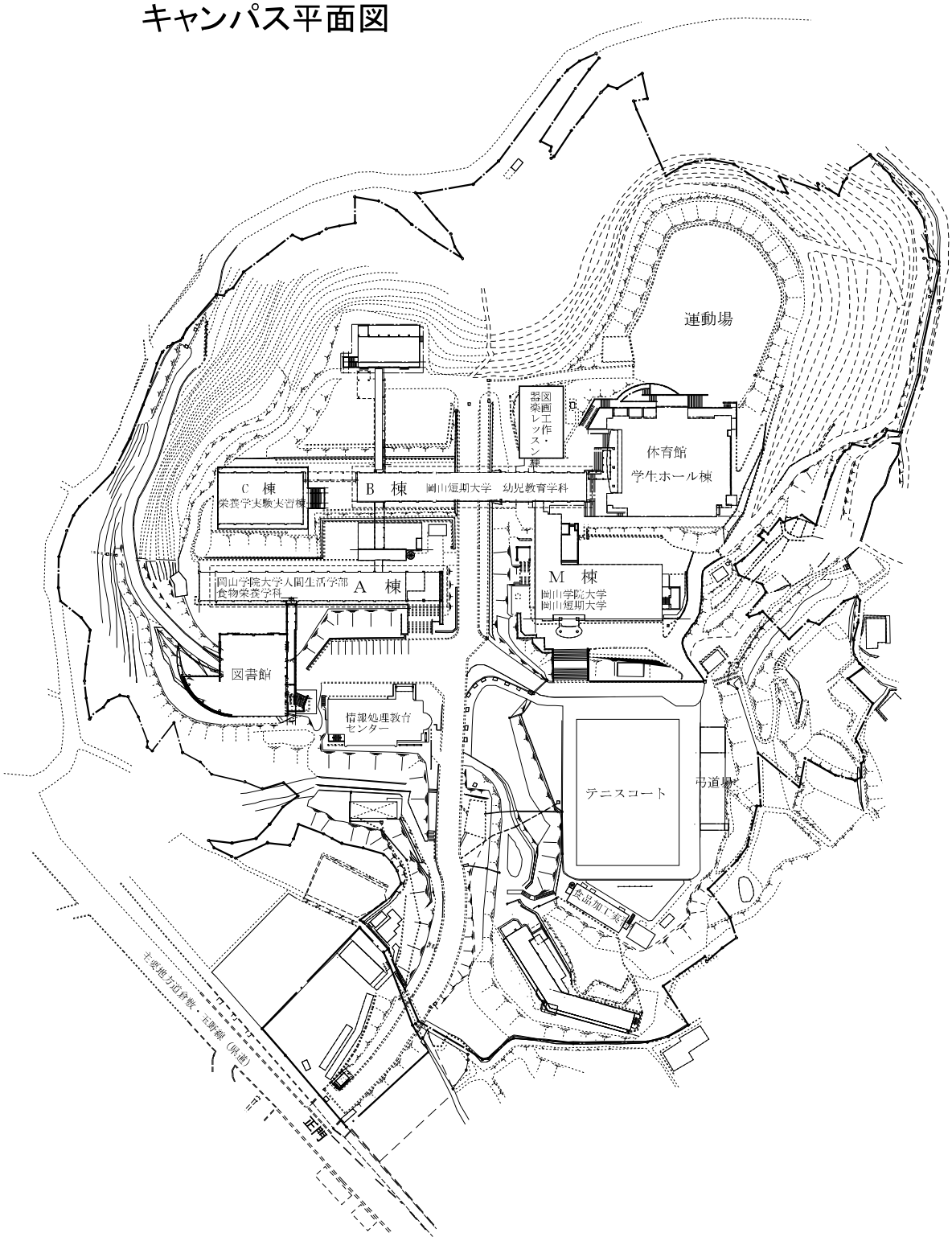
県外からのアクセス

JR岡山駅ー倉敷駅間は数分間隔で山陽本線・伯備線が運行。所要時間は約15分。
また福山もJRで43分の通学圏内です。

【主な都市からのJR所要時間】
西部…三原から７２分、尾道から６２分、福山から４３分。
北部…新見から７０分、備中高梁から３６分、岩国から１１分。
南部…高松から４２分、阪出から３１分、宇野から２４分。

【車での所要時間】

岡山学院大学・岡山短期大学
キャンパス平面図



八 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること（8 号関係）

岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科

学費は 1 年を 2 期に分けて 1 期分（半年分）を毎期開始後 10 日以内に前納するものとする。

令和 5 年度学費一覧表			
納入時期 種別	入学手続き時	毎学年度	
		前期	後期
入学金	250,000 円		
授業料		350,000 円	350,000 円
教育充実費		80,000 円	80,000 円
施設設備費		40,000 円	40,000 円
合計	250,000 円	470,000 円	470,000 円

以上の外に、 下表の金額が必要である。 なお諸費変更の場合、 在学生にも新規金額を適用する。

後援会費	37,000 円（毎年）
卒業寄附	（一口任意）一口 20,000 円
学友会費	8,000 円（毎年 7,000 円＋入会金 1,000 円）

九 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること （9 号関係）

学生相談室

メンタルケアやカウンセリング体制については学生相談室がある。本学学生の個人的諸問題について相談に応じ、援助を行うことを目的とするもので、入学式直後のオリエンテーションで概要を毎年告知している。構成員はカウンセラー及び相談員である。利用可能な日時は年度・学期ごとに掲示によって告知し、利用方法に関しては全学生に対して新年度オリエンテーションにおいてカウンセラーが特別に説明している。以上のことは学生便覧に詳述され、学生はいつでも読むことが出来る。運営に関しては学長とカウンセラー及び相談員が連携をとっている。

休養室

学生の保健衛生管理を目的として休養室を設置している。休養室は、学務課学生係が管理・運営している。学生の身体状況に応じ、本学教員の医師に相談の上、外来受診等に供する場合も生じる。

本学の校医は財団法人倉敷成人病センターの健診センター長にお願いしているので入学後の健康診断の結果も当センターに依頼し学生の実習等における健康診断書の発行も本学で行っている。

生活指導担当教員および環境衛生担当教員

本学では教員の中から任命された生活指導担当教員により生活指導部が構成され、学生の心身ともに健康な生活支援を行っている。また、同様に任命された環境衛生担当教員で構成する環境衛生部は学内の清掃と美化に努め、学内の規律を保つための厚生補導に努める。このことは入学式直後の新入生オリエンテーションや新学期の新 2、新 3、新 4 年次生へのオリエンテーションでも生活指導部および環境衛生部は学生に対し呼びかけ、注意を促すのが通例である。

学友会

学友会は各クラブの統括だけでなく、健全で規律ある学生生活の発展にも寄与する任務がある。特に厚生部は各クラスから選出される評議員と各学科教員から 1 人ずつ任命される顧問によって構成され、学生の意見を広く汲み上げる部門であり、学園のために貢献してきた歴史がある。

食物栄養学科キャリア支援室

大学の専任教員が担当者となって編入学、公務員試験をはじめとする一般職の就職相談及び就職指導などキャリア支援をしている。

情報処理教育センター

自由に使える PC を配置し、授業以外の時間帯における学生の情報処理学習を支援している。

多くの学生がWeb検索や、レポート作成などに利用している。

図書館
図書のレファレンスサービスの他に貸し出し用ノートPが利用できるようにしてありインターネットを介しての情報学習もできるように配慮している。

経済的支援
日本学生支援機構の奨学金「第一種奨学金」「第二種奨学金」を希望する学生に対し、学年始めのオリエンテーション時に学務課学生係が制度の説明から書類作成手続き及び学生生活の指導(特に経済面)までを行っている。
本学独自の奨学金制度としては「岡山学院大学特別奨学生」の制度がある。これは特別推薦選抜に合格し入学手続きを完了した者で、特別奨学生を希望する者の中から学業優秀者を選抜し、在学中の授業料半額免除を可能にしている。
また家庭の事情などにより在学中に授業料納付が困難になった学生の申し出により成績・人物を審査し、合格者を優待生として授業料の半額免除を実施する「岡山学院大学A種奨学生」がある。
入学後、本学より半径2km 圏内で一人暮らしをされる学生に対して、毎月の家賃10,000 円を補助する家賃補助制度がある。
経済的支援体制としてのアルバイト紹介などの業務を学務課学生係が行っている。

教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報（学校教育法施行規則第172条2第2項関係）

人間生活学部食物栄養学科

学生の学習成果

本学で学ぶ学生の卒業時の学習成果は、建学の精神「教育三綱領」の基、自律した信念のある社会人となることである。

Society 5.0 時代の現場に即応でき、栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献できる管理栄養士になるために、学科の教育課程(基礎教育科目および専門教育科目)の学習をとおして、次の学習成果を獲得する。

Ⅰ．専門的学習成果

学科の専門学習では、Society 5.0 時代の現場に即応でき、栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献できる管理栄養士になるため、学科の教育課程の学習をとおして、専門知識と専門的能力を獲得する。

① 多様な専門領域に関する基本となる専門的知識を獲得する。
② チーム医療の重要性を理解し、他職種や患者とのコミュニケーションを円滑に進める能力を獲得する。
③ 公衆衛生を理解し、栄養・給食関連サービスのマネジメントを行う能力を獲得する。
④ 健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養指導を行う能力を獲得する。

⑤ 子どもが将来にわたって健康に生活していけるよう、食に関する指導（学校における食育）をする能力を獲得する。

Ⅱ. 汎用的学習成果

基礎教育科目の学習をとおして、

① 基礎的な知識から新しい知識・健康関連データを創造する力や新食品開発企画力や研究開発力など栄養学分野の基本的な能力と知識を現代の諸問題と関連づけて展開できるクリエイティブ力を獲得する。

② 数量的スキルや ICT リテラシーで Society 5.0 時代のビッグデータを管理・活用し、円滑なチームワーク、リーダーシップ、対人コミュニケーションで、Society 5.0 時代のビッグデータを管理・活用し、個人のヘルスプランを創案し、健康改善につなげるマネジメント力を獲得する。

③ 心身のサポートや精神的にケアする力、健康づくりをサポートするために信頼される社会人としての態度、信念、意見および責任を果たすために必要な倫理観、自己管理力などのホスピタリティ力を獲得する。